

COLLEGE BULLETIN 2025

National Institute of Technology (KOSEN), Hachinohe College

独立行政法人 国立高等専門学校機構

八戸工業高等専門学校

学校要覧



八戸工業高等専門学校校歌

作詞 山谷 勇平
作曲 小出 浩平

一、一億の 民族の知恵
わが誇り

ああ 科学技術

はてしなき 奥南の海に向き

ながれ清き 馬淵のほとり

若人の 夢高し

八戸高専

二、新しき 世界の技術

わが使命

ああ 工業革新

うるわしき 八甲田遠く見て

この丘に あがる新声

若人の 雄飛高し

八戸高専

八戸工業高等専門学校学生歌

標 未来へ向けて

作詞 有馬 佳
作曲 高橋 佑
常盤 円佳

一、煌めく 未来へ 踏み出そう
燦々たる 太陽の下

弾んだ 足音 鳴り響く

咲き揃う 桜の ように

地平線に 夢を広げ

明日を 照らす 光 目指して

八戸高専 我が基幹

八戸高専 我が希望

二、自ら 可能性 広げよう
洋々たる 青空の下

未来に 針路は 向いている

真っ直ぐな 銀杏のように

水平線に 夢を乗せて

君と 共に 光 目指して

八戸高専 我が基幹

八戸高専 我が希望



目 次

04	校訓／設置学科・専攻／修学年限／学生総定員数	24	電気情報工学コース
04	卒業者数・修了者数	27	マテリアル・バイオ工学コース
05	校長挨拶	30	環境都市・建築デザインコース
06	高専制度と八戸高専の特色	33	専攻科
07	教育理念・目的・方針	37	総合情報センター
11	沿革概要	38	図書館
12	自主探究	39	地域テクノセンター
13	国際交流	40	ものづくりセンター
14	教職員の現員	41	産学官金連携協定
14	校務運営機構図	43	福利厚生会館／学生会とクラブ活動
14	各種委員会等	44	学寮（北辰寮）
15	役職員	45	教員等の研究活動
15	歴代校長	46	地域との連携
15	名誉教授	47	学生
15	客員教授	49	進路／就職状況
15	評議員会	51	施設の概要
16	総合科学教育	52	収入・支出決算額／学年暦
21	機械・医工学コース	53	八戸市の紹介

SINCERITY, ENTERPRISE, COOPERATION

【校訓】 誠実 進取 協調

校章の由来

リボン様の部分は伸びゆく白亜の校舎の建つ八戸、そして新産都市に指定された八戸を象徴する「八」、そしてローマ字の「H」を表わし、あわせて無限に伸びようとする我が八戸高専の未来を示している。



校旗

設置学科・専攻

産業システム工学科【本科】

機械・医工学コース
電気情報工学コース
マテリアル・バイオ工学コース
環境都市・建築デザインコース

産業システム工学専攻【専攻科】

機械システムデザインコース
電気情報システム工学コース
マテリアル・バイオ工学コース
環境都市・建築デザインコース

修学年限

本 科 5年
専攻科 2年

学生総定員数 856名

卒業者数 8,251名(1,343名)

機械工学科	1,900名(38名)
電気情報工学科	1,889名(146名)
物質工学科	1,838名(679名)
建設環境工学科	1,711名(206名)

産業システム工学科

機械システムデザインコース	182名(18名)
機械・医工学コース	38名(6名)
電気情報工学コース	229名(39名)
マテリアル・バイオ工学コース	230名(106名)
環境都市・建築デザインコース	234名(105名)

修了者数 521名(93名)

機械・電気システム工学専攻	132名(5名)
物質工学専攻	84名(25名)
建設環境工学専攻	64名(9名)

産業システム工学専攻

機械システムデザインコース	60名(2名)
電気情報システム工学コース	59名(6名)
マテリアル・バイオ工学コース	76名(35名)
環境都市・建築デザインコース	46名(11名)

() は女子内数

校長挨拶



土屋 範 芳
(つちや のりよし)

八戸工業高等専門学校は、青森県初の工学系の国立高等教育機関として昭和38年（1963年）に八戸市に設置され、令和5年に創立60周年を迎えています。本校は、「誠実・進取・協調」を校訓に掲げ、5年一貫教育により、多くの優秀な技術者・研究者を育てており、卒業生は、産業界、国・自治体、教育機関、更には国外でも活躍し、高い評価を得ています。

本校は、本科（1学年から5学年）と称する産業システム工学科に、機械システム・医工学コース、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコースの4コースを設置し、また4学期制を導入しています。さらに、2年間の専攻科が設置されており、本校で大学と同じ学士の学位を取得することができます。

本校の卒業生は、地域の産業の即した人材となり地域の優良企業に就職するとともに、日本を代表する企業に数多く就職し、活躍しています。就職予定の学生一人に対して20社以上の求人があります。

5年卒業後に大学へ編入する学生も多く、東京大学、東北大学などの国立大学の3年次に編入します。さらに専攻科からは、東北大学、北海道大学など研究力の高い著名な大学院へ入学する学生が増加しています。

本校は年度やコースのよって多少の変動はありますが、およそ半分の学生が、5年本科卒業で就職し、半分の学生が、大学や専攻科に進学していきます。

課外活動では運動部、文化部などの活動で素晴らしい成果を挙げています。また、高専独自のロボットコンテスト、プログラミングコンテスト等でも活

躍しています。エンジンの燃費の極限を競うエコマイレージチャレンジでは、2022、23年の2連覇を達成し、さらに2024年度は新設されたカーボンニュートラル燃料部門で優勝しています。

本校独自の教育プログラムとして「自主探究」があります。これは、興味のあるテーマを自分で探し出し、それを科学的に解明したり、実際に物づくりを行ったりする研究です。この自主探究により、「問題解決能力」だけでなく、これからの技術者・研究者には必須となる「問題発見能力」が養われます。まさに、次世代の教育を本校は先駆けて実践しているといえましょう。

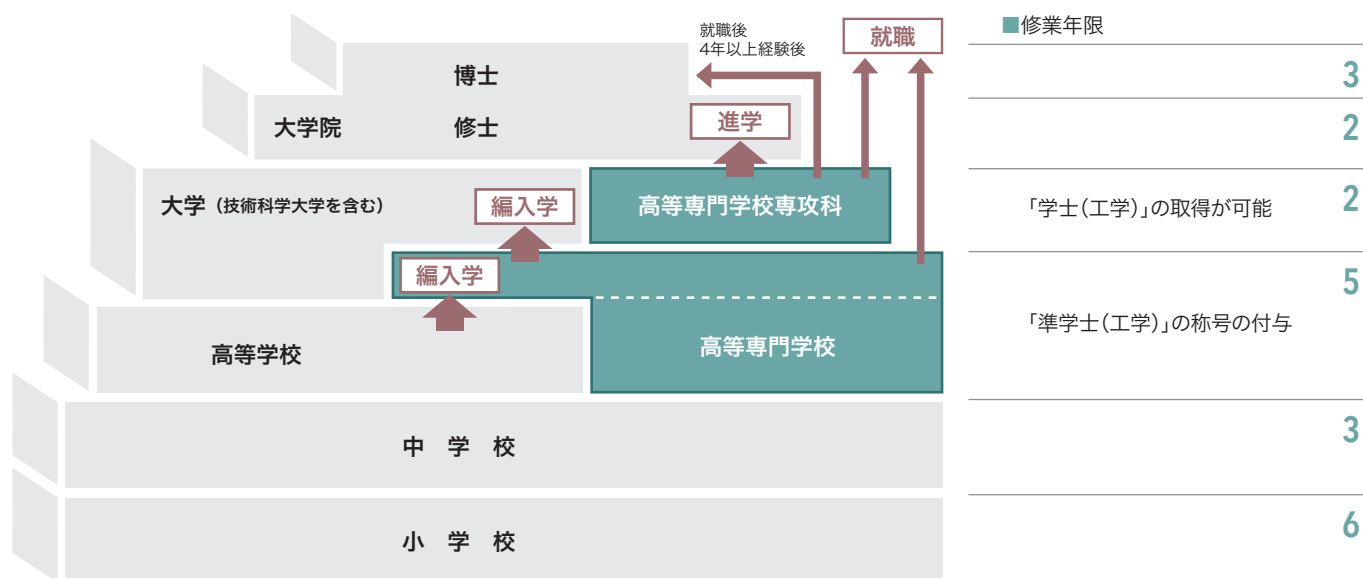
本校は、英語教育に力を入れており、将来グローバルエンジニアとして活躍できるように支援しています。さらに、海外の研究テーマを探し出し、現地に行き海外の学生や教員と課題を解決する「国際自主探究」を行っています。1～3年生は、国際自主探究でシンガポールなどへ短期留学を行っています。専攻科では、フランス等への3～6ヶ月の留学プログラムがあり、多くの学生が複数回の留学を経験しています。

学生が15歳から国際感覚を身につけられるように、シェアハウス型国際混住寮があります。この寮は、個室とコモンスペースがあり、留学生と日本人学生が一緒に生活し、文化や考え方の違いを学ぶことができます。

八戸高専では、質の高い教育環境が提供され、豊かな知識と確かな技術を身につけることができます。八戸高専の門戸はいつでも皆さんに開かれています。



高専制度と八戸高専の特色



○高専制度

- ・高等専門学校（高専）は、わが国のめざましい産業の発展に伴って、産業界からの強い要請に応じて昭和37年に創設された高等教育機関です。現在、51の国立高専があります。
- ・中学校を卒業した15歳からの5年間一貫教育と、実験・実習を重視して一般科目と専門科目をくさび型に配置したカリキュラムによって、理論と実践的技術を備えた技術者の養成を行っています。（日本の学校制度における高専の位置づけは上の図のとおりです。）
- ・卒業時には「準学士」の称号が与えられます。また卒業後に2年間の専攻科課程を修了し、所定の要件を満たした場合には大学改革支援・学位授与機構から「学士」の学位が授与されます。
- ・卒業後は企業への就職のほか、本校の専攻科への進学、国立大学3年次への編入学、専攻科から大学院への進学など、多様な進路選択が可能です。

○八戸高専の特色

- ・平成27年度から全国51国立高専のトップをきって4学期制を導入し、自分で見つけたテーマについて自ら学んで探究する自主探究学習を取り入れました。
- ・低学年からの短期海外研修や専攻科での3ヶ月間の交換留学制度、卒業研究発表会や専攻科の特別研究発表会における英語でのプレゼンテーションなど、国際交流活動が活発です。
- ・文化系や運動系の課外活動はもちろん、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト、自動車工学部のエコランなど、高専ならではの課外活動が盛んです。
- ・企業からの求人倍率が非常に高く就職希望者の就職率は100%です。卒業後、過去5年間で47%の学生が進学しており、そのほとんどが国立大学への編入学です。東大などの難関大学へ進学している学生もいます。専攻科では、過去5年間で51%が進学しており、その多くが東北大など著名な国立大学の大学院へ入学しています。



教育理念・目的・方針

1. 教育理念

豊かな教養の基盤の上に得意とする工学専門分野の知識と技術を身につけ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢を持ち、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する創造力豊かな技術者を養成することを教育理念としています。

2. 使命

創立以来の校訓「誠実・進取・協調」に則り、自立的な人材の育成に主眼をおきながら、ものづくり・システムづくりに長けた専門技術教育を推進すること、また地域に密着した工学系高等教育機関として教育研究活動の高度化・個性化を図りながら、人材育成と研究開発の両面で北東北のみならず日本の発展に寄与することを使命としています。

3. 目的

本校では、教育理念や使命に基づき、目的を学科・専攻科ごとに、以下のように定めています。

(1) 準学士課程の目的

準学士課程は、教育基本法及び学校教育法に基づき、教養と工学専門分野の知識・技術を身につけるとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢を持ち、産業界のニーズに応えられる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(2) 専攻科課程の目的

専攻科課程は、準学士課程における学習を基礎にして、工学に関する高度な知識と技術を深く学習・研究し、幅広い視野と創造性を有して広く産業の発展に寄与し、課題設定・解決ができる高度な実践的・創造的技術者の育成を目的とする。

(3) 学科、専攻科ごとの目的

○産業システム工学科

得意とする専門分野に関する知識と技術を備えつつ他の専門分野の基礎にも理解があり、自ら課題を発見・探究する姿勢と異文化を理解する姿勢を持ち、必要な英語基礎力を備えた実践的・創造的技術者を育成する。

・機械・医工学コース

あらゆるものづくりの基盤となっている機械技術を通じて社会を活力あるものとするため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、機械システムデザイン並びに医工学の基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

・電気情報工学コース

あらゆる産業や生活の基盤である電気・電子・情報系の技術

を通じて、社会のニーズに応えるため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気電子システム並びに知能情報システムの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

・マテリアル・バイオ工学コース

エネルギー・資源・環境問題を考え、経済性や安全性を十分考慮した循環型社会を担うため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、マテリアル工学並びにバイオ工学の基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

・環境都市・建築デザインコース

環境の保全と再生及び安全・安心で持続的発展が可能な社会を実現するため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、環境都市デザイン並びに建築デザインの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○産業システム工学専攻

社会の変化や多様なニーズに対応できるよう、高等専門学校における教育の基盤の上に、精深な程度において工学における高度な専門知識と技術を教授研究し、創造性と研究開発能力を兼ね備えることで、ものづくり、システムづくりを先導でき、かつ国際的に通じる適切な英語基礎力をもつ実践的専門的技術者を育成する。

・機械システムデザインコース

あらゆるものづくりの基盤となっている機械技術を通じて社会を活力あるものとするため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、機械・エネルギーシステム並びに知能機械システムとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

・電気情報システム工学コース

あらゆる産業や生活の基盤である電気・電子・情報系の技術を通じて、社会のニーズに応えるため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気電子システム並びに知能情報システムとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

・マテリアル・バイオ工学コース

エネルギー・資源・環境問題を考え、経済性や安全性を十分考慮した循環型社会を担うため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、マテリアル工学並びにバイオ工学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

・環境都市・建築デザインコース

環境の保全と再生及び安全・安心で持続的発展が可能な社会を実現するため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、環境都市デザイン並びに建築デザインとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

4. 養成しようとする技術者像

本校が養成しようとしている技術者像は、「多角的視野を持ちつ

つ、実験・測定技術、数理的手法および情報処理技術を基盤に、得意とする専門技術分野の基本的素養を持った、ものづくりやシステムづくりに強い実践的な技術者」です。

準学士課程において養成しようとする技術者像は「技術と技能の両面を有する人材」、「企画から設計・生産までの実務に携わる人材」、「自ら課題を発見しその解決に向けて探究する姿勢を持つ人材」です。

専攻科課程において養成しようとする技術者像は「理論を基礎とした高度な技術と技能を有する人材」、「技術開発から設計・生産までの実務のみならず創造的な仕事ができる人材」、「課題解決型に留まらず課題設定型及び提案型の人材」です。

5. 三つのポリシー（三つの方針）

◎産業システム工学科（準学士課程）の三つの方針

【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定方針）

本校では、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

DP 1. 豊かな人間性の涵養

豊かな教養と幅広い視野を備え、地球環境や人類社会における科学・技術の重要性を理解できる。

DP 2. 数学・自然科学・情報処理知識の修得

数学、自然科学の基礎知識、及び応用数学、応用物理、情報処理に関する知識を身につけ、それらを問題解決に応用できる。

DP 3. 専門知識の修得

得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の基礎知識を身につけ、課題解決に応用できる。

DP 4. 課題発見力・探究心と協働性

自ら課題を発見して探究する姿勢を持ち、協調性を発揮してチームの一員として仕事に取り組むことができる。

DP 5. 地域社会への貢献

地域の課題に関心を持ち、その解決に貢献しようとする姿勢を持つ。

DP 6. 異文化理解とコミュニケーション能力

異文化を理解する姿勢を持ち、討議・発表力と英語基礎力を身につけて研究発表等で活用できる。

【専門コースディプロマ・ポリシー】

産業システム工学科ディプロマ・ポリシー DP 3 について各専門コースでは、その目標とする人材像を育成するため、以下に掲げる専門分野の知識と技術を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

○機械・医工学コース

- ・力学分野、材料分野、熱流体分野、計測・制御分野、設計・工作分野を柱とする機械・医工学分野の専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・設計製図や機械加工の知識・技術、及び機械・医工学分野に関する実験・測定技術を活用できる能力。

○電気情報工学コース

- ・エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野を柱とする電気情報工学分野の専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・電気情報工学分野の実験・測定に関する専門技術を活用できる能力。

○マテリアル・バイオ工学コース

- ・化学分野、材料分野、バイオ分野を柱とするマテリアル・バイオ工学分野の専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。

- ・マテリアル・バイオ工学技術に関する実験操作、専門知識を活用できる能力。

○環境都市・建築デザインコース

- ・建設分野、水工分野、環境分野、計画分野、建築分野を柱とする環境都市・建築デザイン分野の専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・環境都市・建築デザイン分野に関する実験・測定技術および製図の知識・技術を活用できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するため、一般科目の学修と連携しつつ低学年から専門科目を少しずつ配置する「くさび型教育」の特長を活かし、知識と技術を体験的に身につけられるカリキュラムを高専機構モデルコアカリキュラムに沿って編成します。具体的なカリキュラム編成方針は以下のとおりです。

CP 1. 技術者として必要な教養と幅広い視野を身につけるため、国語、数学、英語、理科、社会、体育、芸術などの科目を、低学年を中心に開講する。

CP 2. 専門科目の基礎となる数学、自然科学の基礎知識を身につけるため、応用数学、応用物理、情報処理に関する科目を開講する。

CP 3. 得意とする専門分野の知識と技術を身につけるため、専門基礎及び応用科目の講義と、実験、実習などの体験的授業を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、それらを課題解決に応用する能力を育成するため、高学年において創成科目や卒業研究を開講する。

CP 4. 自ら課題を発見し、自立的に探究する姿勢を身につけるため、1学年から5学年に自主探究を実施する。またチーム内での役割を自覚し、協調性を持って仕事に取り組む姿勢を身につけるため、各種の実験・実習や創成科目、卒業研究などにおいて、協働で取り組む内容を設ける。

CP 5. 地域の課題に関心を深めるため、地域志向科目を設ける。また地域の課題をテーマとする自主探究や卒業研究などを奨励する。

CP 6. 討議発表力、異文化理解力を身につけるために日本語コミュニケーション、英語コミュニケーションなどの科目を開講するとともに、短期海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、全学年で自主探究のポスター発表を実施するほか卒業研究の英語発表を奨励する。

【専門コースカリキュラム・ポリシー】

産業システム工学科のカリキュラム・ポリシー CP 3 について各専門コースでは、専門分野の知識と技術を身につけるため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

○機械・医工学コース

- ・機械・医工学分野の専門知識を身につけるため材料分野、熱流体分野、計測・制御分野、設計・工作分野の授業を体系的に開講する。
- ・機械加工、設計、測定に関する技術を身につけるため、設計製図、CAD、工作実習、工学実験などの体験型授業科目を開講する。
- ・機械・医工学の視点から創造性や問題解決能力を育成するため自主探究や卒業研究を開講する。

○電気情報工学コース

- ・電気情報工学分野の専門知識を身につけるため、電気工学の専門基礎、エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野の授業を体系的に開講する。
- ・電気情報工学分野の実験・測定に関する技術を身につけるため、実験実習、電気電子システム実験及び知能情報システム実験、創成実験などの体験型授業科目を開講する。

- ・電気情報工学の視点から創造性や問題解決能力を育成するため自主探究や卒業研究を開講する。

○マテリアル・バイオ工学コース

- ・マテリアル・バイオ工学分野の専門知識を身につけるため、化学分野、材料分野、バイオ分野の授業を体系的に開講する。
- ・マテリアル・バイオ工学分野に関する実験操作等を身につけるため有機・無機化学実験や物理化学実験、化学工学実験などの体験型授業科目を開講する。
- ・マテリアル・バイオ工学の視点から創造性や問題解決能力を育成するため自主探究や卒業研究を開講する。

○環境都市・建築デザインコース

- ・環境都市・建築デザイン分野の専門知識を身につけるため建設分野、水工分野、環境分野、都市・地域計画分野、建築分野の授業を開講する。
- ・環境都市・建築デザイン分野に関する実験・測定技術および製図の知識・技術を身につけるため、測量学・同実習、建設工学実験、建築基礎製図、設計製図、建築デザイン製図などの実験実習科目を開講する。
- ・環境都市・建築デザインの視点から創造性や問題解決能力を育成するため自主探究や卒業研究を開講する。

【学習成果の評価の方法】

学習成果の評価については、各科目の到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価方法、評価割合をwebシラバスにより公開し、到達度を客観的に評価します。

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、到達度試験、演習、課題などの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。
2. 実技・実験・実習・演習などの科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、課題への取り組み状況、レポート、発表、技能スキルなどを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。
3. 卒業研究においては、到達目標を設定し、平素の研究状況、研究成果をまとめた論文、研究発表を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。
4. 自主探究においては、到達目標を設定し、探究への取り組み、成果、報告、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。

【アドミッション・ポリシー】（入学者受け入れ方針）

1. 求める学生像

○1年次入学

- AP 1. 他人への思いやりができ、責任ある行動がとれる人
- AP 2. 数学・理科や英語の基礎的な知識を身につけ、主体的に学習する意欲がある人
- AP 3. 「ものづくり」や「科学・技術」に興味をもち、知的探究心をもって思考しようとする人
- AP 4. チームで協力し、技術を通して社会に貢献する夢がある人
- AP 5. 多様な人々と積極的に対話し、自分の意見や考えを表現できる人

○編入学

- AP 1. 他人への思いやりができ、誠実に責任ある行動がとれる人
- AP 2. 高等学校において、工業の基礎的な知識を身につけ、主体的に学習する意欲がある人
- AP 3. 「ものづくり」や「科学・技術」に興味をもち、知的探究心をもって思考しようとする人
- AP 4. チームで協力し、技術を通して社会に貢献する熱意がある人
- AP 5. 多様な人々と積極的に対話し、自分の意見や考えを表現できる人

2. 入学者選抜の基本方針

A. 第1年次入学者選抜

次の四つの方法で選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視します。

- (1) 国際的エンジニア育成特別選抜
志願者のうち、科学技術や国際交流等に関心がある人を、学力認定検査、実験レポートの作成、並びに面接試験により選抜します。
- (2) 推薦選抜
出身中学校長から推薦された志願者のうち、優れた素養と基礎学力を身につけ本校への入学意志が強い人を、推薦書、調査書及び面接試験により選抜します。
- (3) 学力選抜
志願者のうち、優れた素養と基礎学力を身につけた人を、学力試験（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により選抜します。
- (4) 帰国子女特別選抜
外国における教育を受けた人で一定の条件を満たす志願者のうち、本校の学習に必要な素養と基礎学力を身につけた人を、学力試験（数学、理科、英語）、作文、面接試験及び調査書により選抜します。

B. 第4年次編入学者選抜

次の二つの方法で選抜します。

- (1) 推薦選抜
在籍（出身）高等学校長から推薦された志願者のうち、編入学を希望するコースの学習に必要な基礎学力を身につけ、意欲及び適性のある人を、一般面接、口頭試問（数学、専門）及び調査書により選抜します。
- (2) 社会人特別選抜
志願者のうち、編入学を希望するコースの学習に必要な基礎学力を身につけ、意欲及び適性のある人を、推薦書、志望理由書、業務内容調書、調査書、小論文及び面接（専門に関する口頭試問を含む）により選抜します。

◎産業システム工学専攻（専攻科）の三つの方針

【ディプロマ・ポリシー】（修了認定方針）

専攻科では、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定します。

- DP 1. 地球環境と科学技術の重要性
豊かな教養を基盤とし、学際的な視野を有し、地球環境と社会における科学・技術の重要性を理解できる。
- DP 2. 産業発展への寄与
数学、物理、化学等の基礎知識、及び技術者としての高い倫理観を身につけ、広く産業の発展に寄与できる。
- DP 3. 専門分野・他分野の知識・技術と応用力
得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の応用知識を身につけ、課題解決に応用できる。
- DP 4. 地域課題への関心と課題解決能力
地域課題に関心を持ち、自らが課題設定・解決能力を有し貢献することができる。
- DP 5. 異文化理解と討議・発表力・英語基礎力
国際的な学術研究や異文化を理解する姿勢、及び討議・発表力と英語基礎力を身につけて特別研究等の各種発表等で活用できる。

【専門コースディプロマ・ポリシー】

産業システム工学専攻のディプロマ・ポリシー DP 3 について各専門コースでは、その目標とする人材像を育成するため、以下に掲げる専門分野の知識と技術を身につけ、所定の単位を修得し

た学生に対して、修了を認定します。

○機械システムデザインコース

- ・材料分野、熱流体分野、計測・制御分野、設計・工作分野を柱とする機械工学分野の高度な専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・機械システムデザイン分野の技術に関する実験・測定技術を保有・駆使できる能力。

○電気情報システム工学コース

- ・エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野を柱とする電気情報工学分野の高度な専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・電気情報工学技術に関する実験・測定技術を保有・駆使できる能力。

○マテリアル・バイオ工学コース

- ・化学分野、材料分野、バイオ分野を柱とするマテリアル・バイオ工学分野の高度な専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・マテリアル・バイオ工学技術に関する実験・測定技術を保有・駆使できる能力。

○環境都市・建築デザインコース

- ・建設分野、水工分野、環境分野、計画分野、建築分野を柱とする環境都市・建築デザイン分野の高度な専門知識を身につけ課題解決に応用できる能力。
- ・環境都市・建築デザイン分野の技術に関する実験・測定技術を保有・駆使できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するため、一般科目、専攻共通科目そして専攻専門科目の3種類を設定して高度な知識を体系的に身につけられるカリキュラムを編成します。具体的なカリキュラム編成方針は以下のとおりです。

- CP 1. 学際的な視野と技術者としての素養を身につけるため、情報工学、環境エネルギー工学、人文社会科学要論などの科目を開講する。
- CP 2. 横断的な共通知識の深化と技術者としての高い倫理観を身につけるため、応用数学、物理学要論、化学要論、生物学概論、技術者倫理などの科目を開講する。
- CP 3. 得意とする専門分野の知識と技術、及び他の専門分野の応用知識を身につけるため、応用科目の講義、演習、実験などの体験的授業を組み合わせたカリキュラムを編成する。また、課題設定・解決能力を育成するため、特別研究を実施する。
- CP 4. 地域の課題に関心を深めるためにエンジニアリングデザイン、学外研修などの科目を設け、履修を奨励する。
- CP 5. 国際的な発表・討議力、異文化理解力を身につけるために表現法、総合英語、工学研修などの科目を開講するとともに、最大半年間の海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、特別研究の発表会では英語発表を行う。

【専門コースカリキュラム・ポリシー】

産業システム工学専攻のカリキュラム・ポリシー CP 3 について各専門コースでは得意とする専門分野について、以下の方針に従ってカリキュラムを編成します。

○機械システムデザインコース

- ・機械システムデザイン分野の専門知識と技術を深化させるため、材料分野、熱流体分野、計測・制御分野、設計・工作分野の応用的な授業を開講する。

○電気情報システム工学コース

- ・電気情報工学分野の専門知識と技術を深化させるため、電気工学の専門基礎、エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報

通信分野の応用的な授業を開講する。

○マテリアル・バイオ工学コース

- ・マテリアル・バイオ工学分野の専門知識と技術を深化させるため、化学分野、材料分野、バイオ分野の応用的な授業を開講する。

○環境都市・建築デザインコース

- ・環境都市・建築デザイン分野の専門知識と技術を深化させるため、建設分野、水工分野、環境分野、計画分野、建築分野の応用的な授業を開講する。

【学習成果の評価の方法】

学習成果の評価については、各科目の到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価方法、評価割合をwebシラバスにより公開し、到達度を客観的に評価します。

1. 講義・演習科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験、課題、演習、レポートなどを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。
2. 実験・実習科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、報告書、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。
3. 特別研究においては、到達目標を設定し、平素の研究状況、研究成果をまとめた論文、研究発表を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。

【アドミッション・ポリシー】（入学者受け入れ方針）

1. 求める学生像

- AP 1. 社会における科学技術の重要性を理解し、その問題に関心を持つ人
- AP 2. 専門分野のみならず、他分野の基礎的知識をも習得して多角的視野を持つとする人
- AP 3. 「ものづくり」に関心を持ち、創造力と開発能力を身につけようとする人
- AP 4. 地域の諸課題に関心を持ち、協働してその解決に取り組む意欲のある人
- AP 5. 国際社会に対応できる基礎的な言語能力を身につけ、多様な価値観を理解する意欲を有し、自らの見解を論ずる事のできる人

2. 入学者選抜の基本方針

次の四つの方法で選抜します。

- (1) 推薦選抜
推薦書、調査書、自己アピール文、TOEIC (L & R Test) の公開テストまたはIPテストのスコア及び面接試験により選抜します。
- (2) 学力選抜
学力試験、調査書、自己アピール文、TOEIC (L & R Test) の公開テストまたはIPテストのスコア及び面接試験により選抜します。
- (3) 社会人特別選抜
調査書、自己申告書、TOEIC (L & R Test) の公開テストまたはIPテストのスコア及び面接試験により選抜します。
- (4) 外国人留学生特別選抜
A (国外の高専生対象)
推薦書、入学志願者自己調査書、成績証明書、小論文検査、TOEIC (L & R Test) の公開テストまたはIPテストのスコア、日本語能力試験 (JLPT) のスコア及び面接試験により選抜します。
B (国内の高専生対象)
推薦書、調査書、入学志願者自己調査書、学力試験、TOEIC (L & R Test) の公開テストまたはIPテストのスコア、日本語能力試験 (JLPT) のスコア及び面接試験により選抜します。



沿革概要

高等専門学校は、我が国の産業の発展と科学技術教育のより一層の振興を図るために、昭和37年に創設された高等教育機関です。

本校は、昭和38年4月1日に機械工学科、電気工学科（平成17年に電気情報工学科に改組）、工業化学科（平成3年に物質工学科に改組）の3学科をもって開校し、昭和43年に土木工学科（平成7年に建設環境工学科に改組）が増設されました。さらに、平成14年には専攻科（機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻、建設環境工学専攻）が設

置られ、平成16年度からは、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する八戸工業高等専門学校になりました。平成27年度には、本科を1学科（産業システム工学科）4コース制（機械システムデザインコース（令和3年に機械・医工学コースに名称変更）、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコース）、専攻科を1専攻（産業システム工学専攻）4コース制（機械システムデザインコース、電気情報システム工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコース）に改組しました。

昭和38年	4月1日	八戸工業高等専門学校が設置される 県立八戸東高等学校旧校舎を仮校舎とする
	4月19日	長根リンク選手控室を増改築して仮寄宿舎とする
	4月20日	県立八戸東高等学校体育館で開校式及び第1回入学式（入学許可者130名）を挙行 八戸工業高等専門学校（父兄）後援会が発足 学生会が発足
昭和39年	12月13日	学生会が発足
	1月12日	長根リンクの仮寄宿舎より本寄宿舎へ移転
	3月31日	校舎及び寄宿舎の第1期工事竣工
昭和40年	4月9日	仮校舎より本校舎へ移転
	5月15日	寄宿舎を「北辰寮」と命名
	3月20日	校舎及び寄宿舎の第2期工事竣工
昭和41年	3月20日	校舎及び寄宿舎の第3期工事竣工
	4月1日	事務部制（庶務課及び会計課を設置）を実施
	10月28日	校歌を制定
昭和42年	10月29日	校舎落成式を挙行
	12月17日	水泳プール工事竣工
	11月20日	武道場工事竣工
昭和43年	3月19日	第1回卒業証書授与式（卒業許可者110名）を挙行 八戸工業高等専門学校同窓会が発足
	4月1日	土木工学科を増設 第1・2学年全寮制を実施
	5月16日	十勝沖地震により校舎が被害を受け使用不能となる
昭和44年	3月20日	低学年寮及び高学年寮増築工事並びに女子寮新営工事が竣工
	3月29日	校舎災害復旧第1期工事竣工
	9月30日	土木工学科棟新営工事及び学科増設に伴う教室増築工事が竣工
昭和45年	3月20日	校舎災害復旧第2期工事竣工
	11月15日	図書館新営工事竣工
	4月1日	事務部に学生課を設置
昭和46年	10月13日	創立10周年記念式典を挙行
	2月26日	電子計算機室新営工事竣工
	3月26日	合宿センター新営工事竣工
昭和47年	9月10日	合宿センターを「錬成館」と命名
	3月27日	第二体育館新営工事竣工
	10月13日	創立15周年記念式典を挙行
昭和48年	3月20日	廃水処理施設新営工事竣工
	3月21日	武道場増築工事竣工
	3月25日	福利厚生会館新営工事竣工
昭和49年	3月29日	水泳プール上屋新営工事竣工
	2月20日	廃棄物・エネルギー利用教育研究センター新営工事竣工
	12月15日	一般教室増築工事竣工
昭和50年	10月13日	創立20周年記念式典を挙行
	3月31日	低学年寮増築工事竣工
	4月9日	第1回編入学式（工業高校から第4学年へ受入）を挙行
昭和51年	4月1日	工業化学科を物質工学科に改組 廃棄物・エネルギー利用教育研究センターを総合技術教育研究センターに名称変更
	4月1日	学校週5日制を実施
平成4年	4月9日	外国人留学生（マレーシアから2名）を初めて受入れ
	8月31日	地域文化研究センターを設置
	4月1日	総合情報教育センターを設置
平成5年	6月17日	八戸工業高等専門学校産業技術振興会が発足
	6月30日	物質工学科第2棟工事竣工
	10月21日	創立30周年記念式典及び記念シンポジウムを挙行
平成6年	8月5日	平成6年度全国高等専門学校体育大会八戸大会を開催
	12月28日	三陸はるか沖地震により校舎の一部が使用不能となる
	4月1日	土木工学科を建設環境工学科に改組
平成7年	3月29日	管理棟災害復旧工事竣工
	3月17日	一般教育・管理棟新営工事竣工
	4月1日	総合情報教育センターを総合情報センターに名称変更
平成8年	7月31日	物質工学科棟新営工事竣工
	4月1日	一般教育棟を講義棟に名称変更
	6月30日	電気工学科棟新営工事竣工
平成9年	2月1日	講義室の一部をゼミナール棟に名称変更

平成12年	3月30日	電気機器実験室をサークル共用施設に用途変更
	4月1日	低学年に混合学級を導入 一般教科を総合科学科に名称変更
	3月22日	機械工学科棟新営工事竣工
平成13年	3月15日	建設環境工学科棟改修工事竣工
	4月1日	専攻科（機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻、建設環境工学専攻）を設置
	4月1日	総合技術教育研究センターを地域テクノセンターに名称変更
平成14年	10月8日	創立40周年記念式典を挙行
	3月16日	専攻科棟新営工事竣工
	3月17日	第1回専攻科修了証書授与式を挙行
平成15年	4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校へ移行
	4月1日	電気工学科を電気情報工学科に改組
	5月12日	「産業システム工学」プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受ける
平成16年	3月20日	高等専門学校機関別認証評価が確定し、評価基準を満たしていると判断される
	4月1日	事務部二課制（庶務課と会計課が総務課に統合）に移行
	12月1日	教育研究支援センターを設置
平成17年	5月13日	「産業システム工学」プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の継続認定を受ける
	3月29日	高等専門学校機関別認証評価を受審し、平成17年度に引き続き評価基準を満たしていると認定された
	11月4日	創立50周年記念式典、記念講演会及び記念祝賀会を開催した
平成18年	3月7日	図書館の改修工事が竣工した
	5月19日	実習工場をものづくりセンターに名称変更した
	3月31日	創立50周年記念ホールが竣工した
平成19年	4月1日	本科を1学科（産業システム工学科）4コース制（機械システムデザインコース、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコース）に、専攻科を1専攻（産業システム工学専攻）4コース制（機械システムデザインコース、電気情報システム工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコース）に改組した
	3月27日	総合科学科を総合科学教育科に名称変更した
	4月1日	4学期制を導入した
平成20年	3月27日	高等専門学校機関別認証評価を受審し、平成23年度に引き続き、評価基準を満たしていると判断された
	3月29日	学寮の一部を改修し、国際寮とした
	3月29日	記念会館の改修工事が竣工した
平成21年	4月28日	地域テクノセンターの改修工事が竣工した
	2月26日	寄宿舎E棟の一部改修工事が竣工した
	4月1日	本科の機械システムデザインコースを機械・医工学コースに名称変更した
平成22年	5月31日	ライフライン再生（給水設備）工事が竣工した
	1月31日	寄宿舎I棟（国際寮）が竣工した
	9月14日	寄宿舎N棟（国際寮）が竣工した
平成23年	9月16日	高専制度創設60周年記念 グローバル高専に向けた国際寮披露記念式典及び祝賀会を開催した
	3月31日	圓山重直校長が退任した
	4月1日	第10代校長に東北大学教授（前大学院環境科学研究科長）工学博士 土屋範芳が就任した
平成24年	10月28日	高専制度創設60周年記念事業「高専の森」八戸高専創立60周年記念植樹式を開催した
	11月20日～22日	国立高専教育国際標準（KIS）評価にかかる実地評価が実施された
	3月11日	産業システム工学科の各コースの教育プログラムがKISに適合していると認定された
平成25年	11月8日	自主探究活動を深化させる教育拠点「イノベーションハブ」と、より先端的な研究が可能な「リサーチハブ」を校内に整備した
	11月22日	洋上風力分野の人材育成を目指したカリキュラム策定を進める拠点校として選定され記者発表会が行われた



自主探究

自主探究は、15歳からの課題発見力・解決力の育成を目的としています。全学年対象の正課として実施され、今年度で11年目を迎えます。学生は皆、探究課題を自分自身で毎年見つけます。特に、低学年生（1～3年生）は所属専門コースの枠を超えても構いません。やりたいことを見つけるために自分自身と向き合う。興味ある事柄に関して、何が、どこまで明らかにされているかを調査する。先行研究調査の結果を踏まえ、自分なりのオリジナリティを模索する。こうして、春・夏学期は課題発見活動に集中します。

各自の活動はFacilitating Hour（グループ相談会、通称FH）とActivity（1分プレゼン形式の報告会）という形で“見える化”されます。研究リテラシーの基礎を学生同士の間で

互いに学び合うためです。注目すべきは、FHでもActivityでもファシリテーター高学年生（選抜された4, 5年生）が指揮をとり低学年生をケアしていることです。これが可能なのは、5年制の高専には「高校1～3年生相当」と「大学1、2年生相当」が在籍し、後者もまた入学時から自主探究の経験値を積み上げているからです。自主探究は「八戸高専ならではの」持続可能な主体的学修システムと言えます。

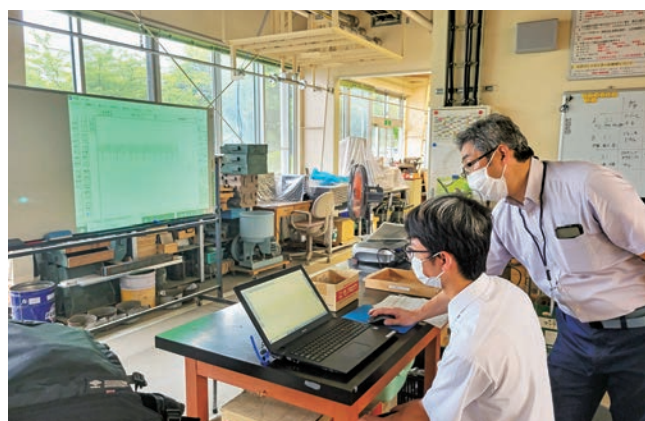
FHとActivityは、秋・冬の課題解決学期も続きます。教職員による各種の支援セミナーも探究活動をサポートしています。全学規模で見守られた探究活動の集大成は2月に校内ポスター発表の形で締め括られます。



Facilitating Hour（グループ相談・進捗会）



Activity（1分プレゼン報告会）



支援セミナー



ポスター発表会



国際交流

グローバルセンターは、国際交流委員会を前身とし、外国人留学生の受入・指導、日本人学生の海外派遣研修事業の企画等を主な役割として、令和6年4月に設置されました。

外国人学生の受入・日本人学生の派遣等の国際交流プログラムの展開によって、学生たちの海外に対する意識の向

上、異文化コミュニケーション力の向上を図っています。また、令和元年度には留学生と日本人学生と一緒に生活する混住型国際寮を設立しました。日常的に留学生との交流を深めることにより、学内においても国際感覚を身につけることができます。

主な学生派遣プログラム

交流国	大学等名	学年	期間
シンガポール	テマセクポリテクニク	本科1～4年	12日間
	シンガポールポリテクニク	本科2年	9日間
モンゴル	新モンゴル高専	本科1・2年	12日間
タイ	PCSHS サトゥーン校	本科3年	5日間
台湾	文藻外語大学	本科1～3年	7日間
カナダ	バンウェストカレッジ	本科3年	約1ヵ月
アメリカ	シリコンバレーほか	本科3年	7日間
フランス	フランスIUT	専攻科1年	約3ヵ月
フィンランド	メトロポリア応用科学大学	専攻科1年	約4ヵ月
シンガポール	テマセクポリテクニク	専攻科1年	約1ヵ月



フィンランド留学



シンガポールでの国際自主探究



学内での国際交流(国際寮)



台湾語学研修



組 織

令和7年4月1日現在

教職員の現員

	教 員						職 員		合 計
	校長	教授	准教授	講師	助教	小計	事務職員	教育研究支援センター	
現員	1	16 (1)	20 (3)	1	16 (2)	54 (6)	31 (13)	9	94 (19)

() は女子内数を示す

校務運営機構図



各種委員会等

企画室会議
運営委員会
教員会議
入学者選抜委員会
教務委員会
厚生補導委員会
寮務委員会
専攻科委員会
施設整備計画委員会
環境マネジメント委員会
知的財産委員会
広報委員会

総合情報センター委員会
地域テクノセンター委員会
教育研究支援センター運営委員会
グローバルセンター会議
廃水処理施設管理運営委員会
相談室運営委員会
障害者相談室委員会
キャリア教育・学習支援センター運営委員会
就職支援委員会
リスク管理室
安全衛生専門委員会
防災対策専門委員会

ハラスメント専門委員会
いじめ対策委員会
ダイバーシティ推進委員会
動物実験委員会
人間対象研究倫理委員会
組換えDNA実験安全委員会
安全保障輸出管理委員会
自己点検・評価委員会
合理的配慮検討委員会

役職員

職 名	氏 名
校長	土屋 範芳
企画担当副校長	菊地 康昭
副校長(教務主事)	野中 崇
副校長(学生主事)	中村 雅徳
副校長(寮務主事)	佐藤久美子
副校長(専攻科長)	丸岡 晃
副校長(研究担当・地域テクノセンター長)	南 将人
教育研究支援センター長	
副校長(総合情報センター長・図書館長)	釜谷 博行
総合科学教育科長	吉田 雅昭
産業システム工学科長	齊藤 貴之
機械・医工学コース長	村山 和裕
電気情報工学コース長	細川 靖
マテリアル・バイオ工学コース長	齊藤 貴之
環境都市・建築デザインコース長	南 将人
空間構造デザイン系長	藤原 広和
ロボティクス系長	細川 靖
機能創成材料系長	野中 崇
再生可能エネルギー系長	丸岡 晃
ナノテクノロジー系長	菊地 康昭
環境・バイオテクノロジー系長	齊藤 貴之
数理科学系長	馬場 秋雄
地域文化系長	佐伯 彩

職 名	氏 名
技術長	千葉 憲一
教育研究・実験支援グループ長(技術専門職員)	遠田 達也
教育実習支援グループ長(技術専門職員)	大澤 啓志
事務部長	佐々木健一
総務課長	大野 速太
総務課課長補佐(総務担当)	佐藤 克彦
総務課課長補佐(地域連携担当)(地域連携係長併任)	橋本美佐子
総務係長	小笠原朋美
職員係長	竹原 裕二
財務係長	山村こず恵
調達・施設係長	小笠原康晃
専門職員	小野寺泰久
専門職員	坂本 大輔
学生課長	葛西 一宏
学生課課長補佐(寮務係長併任)	沢守 尊也
教務係長	澤野 太地
入試・キャリア支援係長	永長 訓史
学生係長	金澤 英知

歴代校長

	学 位	氏 名	在職期間
初 代		小出 義雄	昭38.4.1～昭46.3.19
事務取扱		名取 雅雄	昭46.3.20～昭46.3.31
事務取扱 工学博士		鈴木 幸三	昭46.4.1～昭46.5.31
二 代 法学博士		重倉 珉祐	昭46.6.1～昭55.3.31
三 代 工学博士		玉手 統	昭55.4.1～昭63.3.31
四 代 工学博士		穴山 武	昭63.4.1～平 6.3.31
五 代 工学博士		永井 伸樹	平 6.4.1～平12.3.31

	学 位	氏 名	在職期間
六 代 工学博士		柳沢 栄司	平12.4.1～平18.3.31
事務取扱 工学博士		佐藤 勝俊	平18.4.1
七 代 工学博士		井口 泰孝	平18.4.2～平23.3.31
八 代 Ph. D.		岡田 益男	平23.4.1～平29.3.31
九 代 工学博士		圓山 重直	平29.4.1～令 5.3.31
十 代 工学博士		土屋 範芳	令 5.4.1～

名誉教授

学 位	氏 名	称号授与年月日
	樋渡 勝	平 5.4.1
	高山 宗三	平 6.4.1
	鶴田 佳男	平 9.4.1
	加藤 俊一	平17.4.1
	本田 敏雄	平17.4.1
	富田 實	平17.4.1
	野村 秀世	平17.4.1
	福田 廣夫	平18.4.1
博 士 (工 学)	嶋野 安雄	平18.4.1
博 士 (工 学)	類家 光雄	平18.4.1
博 士 (工 学)	佐藤 義夫	平19.4.1
	土岐 泰教	平20.4.1
博 士 (工 学)	野沢 尚武	平20.4.1
工 学 博 士	佐藤 勝俊	平23.4.1
工 学 博 士	浦西 和夫	平24.4.1
	鳴海 寛	平26.4.1
博 士 (工 学)	土屋 幸男	平26.4.1
博 士 (工 学)	久慈 憲夫	平26.4.1
理 学 博 士	大久保 恵	平26.4.1
博 士 (工 学)	菅原 隆	平27.4.1
工 学 博 士	杉山 和夫	平27.4.1
博 士 (工 学)	鎌田 長幸	平27.4.1

学 位	氏 名	称号授与年月日
	細越 淳一	平27.4.1
博士(情報工学)	工藤 隆男	平28.4.1
教 育 学 修 士	平川 武彦	平28.4.1
Ph. D.	岡田 益男	平29.4.1
	今野 恵喜	平29.4.1
教 育 学 修 士	太田 徹	平30.4.1
理 学 修 士	鳴海 哲雄	平30.4.1
博 士 (工 学)	館野 安夫	平30.4.1
理 学 博 士	中村 重人	平31.4.1
文 学 修 士	高橋 要	令 2.4.1
博 士 (工 学)	赤垣 友治	令 2.4.1
理 学 博 士	佐々木 有	令 2.4.1
工 学 博 士	矢口 淳一	令 3.4.1
博 士 (学 術)	戸田山みどり	令 4.4.1
博 士 (工 学)	工藤 憲昌	令 4.4.1
博 士 (工 学)	松橋 信明	令 4.4.1
工 学 博 士	圓山 重直	令 5.4.1
博 士 (都市科学)	河村 信治	令 6.4.1
博 士 (工 学)	松本 克才	令 6.4.1
理 学 修 士	馬淵 雅生	令 7.4.1
博 士 (工 学)	武尾 文雄	令 7.4.1

客員教授

職 名	氏 名	所 属
客員教授	源新 明	弁護士法人たいよう総合法律経済事務所 代表弁護士、弁理士
客員教授	佐藤 慎也	八戸市美術館館長／日本大学理工学部建 築学科教授
客員准教授	古川 琢磨	芝浦工業大学工学部准教授

評議員会

令和7年3月31日現在

氏 名	職 名	区 分
後山 亮	株式会社アルバック東北工場工場長	産業界の有識者
石藤 清悦	㈱デーリー東北新聞社専務取締役	報道関係の有識者
金本 俊幾	弘前大学大学院理工学研究科長	高等教育機関の教員
源新 明	弁護士法人たいよう総合法律経済事務所代表	法律関係の有識者
佐々木郁夫	八戸市副市長	地方自治体関係者
鈴木 悟	八戸市立豊崎中学校校長	初等・中等教育関係者
大黒 正敏	八戸工業大学工学部教授	高等教育機関の教員
松橋 義昭	㈱青森みちのく銀行取締役常務執行役員八戸地区営業本部長	金融界の有識者
向井 俊晴	八戸商工会議所専務理事	商工関係の有識者



総合科学教育

総合科学教育は、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、保健体育および芸術の授業を通じて、技術者教育に必要な基礎的能力を養うとともに、技術者にとって不可欠な、幅広い視野に裏打ちされた人間と社会に対する感受性を身につけ、豊かな人間性を涵養することを目的としています。

1-3年では、国語・社会・芸術などは、高校の授業に相当した科目を学びます。いっぽう理数系の科目に関しては、大学レベルの応用まで幅広く学ぶことが特徴です。数学では第3学年までに、微分積分学を中心として大学相当の内容を先取りして学びます。また、物理学関連では、1学年で「アクティブラーニング」を採用し、2-3年生の高度な内容に結びつけます。

大学1-2年にあたる4-5年では、電磁気学や現代物理学など技術者としての知識を体系的に学びます。また、文化の多様性を理解し日本語で論理的な文章を書く技術を学ぶ「コミュニケーション」や、「科学技術社会論」および「産業と経営」といった授業が必修となっています。さらに、5年生では人文社会系教員の専門分野の講義が選択科目として開講されます。

国際化時代の技術者にとって、英語をはじめとした外国語によるコミュニケーション能力の習得は重要な課題です。そのため本科ではすべての学年で外国人講師（または海外経験のある教員）による授業を行っているほか、5年生の選択科目としてフランス語と中国語が第二外国語として開講されています。



歴史の授業



地理の授業



物理の授業

授 業 科 目		学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
				1年	2年	3年	4年	5年
一般科目								
必修科目	国語ⅠA		1	1				
	国語ⅠB	(A)	1	1				
	国語ⅡA	(A)	1		1			
	国語ⅡB		1		1			
	国語Ⅲ		1			1		
	コミュニケーションⅠ	(A)	1			1		
	コミュニケーションⅡA		1				1	
	コミュニケーションⅡB	(A)	1				1	
	地理Ⅰ		1	1				
	地理Ⅱ	(A)	1	1				
	歴史A		1		1			
	歴史B	(A)	1		1			
	現代社会A		1			1		
	現代社会B	(A)	1			1		
	産業と経営	(A)	1				1	
	科学技術社会論		1				1	
	北東北学	(A)	1					1
	基礎数学A		1	1				
	基礎数学B		1	1				
	基礎数学C		1	1				
	基礎数学D		1	1				
	基礎数学E		1	1				
	基礎数学F		1	1				
	線形代数A		1		1			
	線形代数B		1		1			
	線形代数C		1		1			
	微分積分学ⅠA		1		1			
	微分積分学ⅠB		1		1			
	微分積分学ⅠC		1		1			
	微分積分学ⅡA		1			1		
	微分積分学ⅡB		1			1		
	微分積分学ⅡC		1			1		
	確率論	(A)	1				1	
	物理学概説		1	1				
	力学Ⅰ		1	1				
	力学Ⅱ		1		1			
	エネルギー物理学Ⅰ		1		1			
	エネルギー物理学Ⅱ		1			1		
	化学ⅠA		1	1				
	化学ⅠB		1	1				
	化学ⅠC		1	1				
	化学ⅡA		1		1			
	化学ⅡB	(A)	1		1			
	生物	(A)	1		1			
	地学	(A)	1		1			
	保健体育ⅠA		1	1				
	保健体育ⅠB		1	1				
	保健体育ⅡA		1		1			
	保健体育ⅡB		1		1			
	保健体育Ⅲ		1			1		
	体育		1				1	
	英語ⅠA		1	1				
	英語ⅠB		1	1				
	英語ⅠC		1	1				
	英語ⅡA		1		1			
	英語ⅡB		1		1			
	英語ⅡC		1		1			
	英語ⅢA		1			1		
	英語ⅢB	(A)	1			1		
	グローバル実践英語ⅠA		1	1				
	グローバル実践英語ⅠB	(A)	1	1				
	グローバル実践英語ⅡA		1		1			
	グローバル実践英語ⅡB	(A)	1		1			
	グローバル実践英語ⅢA		1			1		
	グローバル実践英語ⅢB	(A)	1			1		
	英語演習A		1				1	
	英語演習B	(A)	1				1	

教育課程

(令和7年度以降入学者)

授 業 科 目			学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
					1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	解析学Ⅰ			1	1				
	解析学Ⅱ			1		1			
	解析学Ⅲ			1			1		
	物理学演習			1			1		
	英語演習C			1					1
	集中英語演習Ⅰ			1	1				
	集中英語演習Ⅱ			1		1			
	集中英語演習Ⅲ			1			1		
選択 科目	音楽			1	1				
	美術			1					
	書道			1					
必修 科目	留学生 科目	日本語ⅠA	㊤	1			1		
		日本語ⅠB		1			1		
		日本語ⅠC		1			1		
		日本語Ⅱ		1				1	
		情報科学日本語		1				1	
		日本事情A		1			1		
		日本事情B	㊤	1			1		
		日本事情C	㊤	1			1		
		集中日本語演習		1			1		
合計	開設単位数			87	27	25	23	10	2
	履修可能単位数			76	25	25	16	8	2

(令和7年度以降入学者)

一般・専門共通科目

選択 必修履修科目	一般 科目	第二外国語(1)	①	2					2
		第二外国語(2)	①	2					
		人文社会科学(1)		1					
		人文社会科学(2)		1					
		知的財産権		1					
	専門 科目	スポーツ健康科学		1					2
		品質・生産管理		1					
		医工・福祉		1					
		防災・安全		1					
		再生可能エネルギー技術概論		1					
合計	開設単位数			13	0	0	0	0	13
	履修可能単位数			4	0	0	0	0	4

(令和7年度以降入学者)

共通専門科目

必修 科目	専門 科目	情報リテラシー		1	1				
		基礎製図		1	1				
		ものづくり基礎	①	1	1				
		数理・データサイエンス	①	1					1
選択 必修履修科目	専門 科目	空間デザイン	①	1				1	
		機能創成材料	①	1					
		数理情報	①	1					
		再生可能エネルギーA	①	1					
		原子力工学概論A	①	1				1	
		再生可能エネルギーB	①	1					
		ナノテクノロジー	①	1					
		環境バイオ	①	1					
		ロボティクス	①	1					
		原子力工学概論B	①	1					
選択 科目	専門 科目	校外実習A		1				1 または 2	
		校外実習B		2					
合計	開設単位数			17	3	0	0	13	1
	履修可能単位数			8	3	0	0	4	1

教 員

職名					
学位・称号	氏 名		主な専攻科担当科目	主な担当科目	備 考
教 授					
博士(工学)	菊地	康昭	化学要論	化学ⅠB・C／化学ⅡA・B／創成化学／卒業研究	副校長(企画担当) 安全衛生委員長 ナノテクノロジー系長
博士(理学)	中村	美道	物性物理学	物理学概説／力学／応用物理	探究支援WG長
博士(工学)	吉田	雅昭		基礎数学／微分積分学／再生可能エネルギー	総合科学教育科長 グローバルセンター長 国際交流室長 低学年留学生WG長
博士(理学)	中村	雅徳	総合英語B	英語演習A・B／集中英語演習Ⅳ	副校長(学生主事) 広報委員長
修士(文学)	菊池	秋夫	総合英語A・C	英語Ⅲ／グローバル実践英語Ⅱ／観光と文化	寮務主事補 ダイバーシティ推進委員会委員長
准教授					
博士(理学)	馬場	秋雄	応用数学A	微分積分学／線形代数	第2学年主任 Z2担任 数理科学系長
修士 (日本文学)	齋	麻子		国語ⅠA・B、ⅡB／コミュニケーションⅡA／産業教育／地域資源と文化／日本事情A・B・C	第1学年主任 L2担任
博士(理学)	丹羽	隆裕		物理学概説／力学／エネルギー物理学／物理学演習	E2担任
博士(理学)	水野俊太郎		物理学要論	力学／エネルギー物理学／応用物理	教務主事補
博士(医学)	植村	望		保健体育ⅠA・B、Ⅲ／体育／スポーツバイオメカニクス／産業教育	寮務主事補
博士(文学)	佐伯	彩	人文社会科学要論A	歴史A・B／北東北学	学生主事補(厚生補導委員会) 地域文化系長
助 教					
博士(数理学)	若狭	尊裕	応用数学B	微分積分学／数理情報／応用数学Ⅲ／解析学	L4担任
博士(理学)	新藤	圭介	応用数学演習	微分積分学／基礎数学	M2担任
修士(農学)	清川	紘樹		英語Ⅱ／グローバル実践英語Ⅰ／集中英語演習Ⅰ／産業教育	L3担任
博士(文学)	矢吹	文乃	表現法	国語ⅡA・B、Ⅲ／コミュニケーションⅠ、ⅡA・B／産業教育	C2担任
修士(体育学)	松橋	瑠偉		保健体育ⅡA・B、Ⅲ／体育／スポーツバイオメカニクス／産業教育	L1担任
博士(学術)	工藤	璃輝		科学技術社会論／現代社会A・B	
特命准教授					
教育学士	田村	英門		グローバル実践英語ⅢA・B／英語演習C	
修士(文学)	草刈	明美		日本語ⅠA・B・C／集中日本語演習	
嘱託教授					
博士(都市科学)	河村	信治		地理Ⅰ、Ⅱ／北東北学	八戸高専名誉教授
理学修士	馬淵	雅生		応用数学Ⅰ～Ⅳ／確率論／基礎数学D・F／解析学	八戸高専名誉教授
嘱託准教授					
文学士	岡田みゆき			英語Ⅰ、Ⅱ／集中英語	

教 員

職名	学位・称号	氏 名	主な専攻科担当科目	主な担当科目	備 考
非常勤講師					
文学士		海野かおり		国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／コミュニケーションⅠ・Ⅱ	
英文学士		馬場亜紀子		日本語Ⅰ・Ⅱ／集中日本語演習Ⅲ／情報科学日本語	みちのく国際日本語教育センター理事長
文学士		米田 巧		書道	
文学士		小林 和子		書道	
芸術学士		小川芳勇樹		美術	
学士(中医学)		林 雁青		中国語	
修士(文学)		横澤真理子		中国語	
学士(音楽)		大黒亜紗子		フランス語／音楽	
準学士(英文学)		吉澤 真美		フランス語	
修士(教育学)		大山 誠		英語Ⅲ	
文学士		小原 敏和		英語Ⅱ	
教養学士		木村 伸子		英語Ⅰ	
経営学士		マシュー・トーマス		グローバル実践英語Ⅰ・Ⅱ	
理学博士		西村 克彦		基礎数学／解析学Ⅰ	富山大学名誉教授
理学士		佐々木 裕		基礎数学／解析学Ⅰ／微分積分学Ⅰ	
教育学修士		佐藤 誠剛		化学Ⅰ	
理学修士		福地 進		線形代数／力学Ⅱ／エネルギー物理学Ⅰ	
理学修士		鳴海 哲雄		応用数学Ⅰ	八戸高専名誉教授
教育学修士		平川 武彦	技術者倫理	日本事情	八戸高専名誉教授
文学修士		高橋 要	人文社会科学要論B	人文社会科学(哲学)	八戸高専名誉教授
社会科学士		長者久保雅仁		現代社会／ものづくり基礎／産業と経営	
博士(医学)		工藤祐太郎		保健体育Ⅱ	八戸学院大学講師
文学修士		戸田山みどり		ものづくり基礎／人文社会科学(科学技術をよく考える)	八戸高専名誉教授
学士(工学)		小原 照記		ものづくり基礎	いわてデジタルエンジニア育成センターセンター長
工学士		中里 適		品質・生産管理	八戸工業大学非常勤講師
準学士(工学)		松坂 洋司		品質・生産管理	公益財団法人八戸地域高度技術振興センター事務局長
保健衛生学士		野沢 義則		医工・福祉	八戸市立市民病院臨床工学科・医療安全管理室技師長
水産科学博士		前多 隼人		医工・福祉	弘前大学農学生命科学部准教授
医学博士		掛端 伸也		医工・福祉	弘前大学大学院医学研究科助教
博士(工学)		岡部 孝裕		医工・福祉	弘前大学大学院理工学研究科准教授
博士(工学)		上田 恭介		医工・福祉	東北大学大学院工学研究科准教授
博士(工学)		安西 眸		医工・福祉	東北大学流体科学研究所准教授
博士(工学)		齊藤 一幸		医工・福祉	千葉大学准教授
学士(工学)		小鹿 司		防災・安全	建設業労働災害防止協会コスモセンター労働安全マネジメントシステム監査員
工学博士		佐藤 学		原子力工学概論A	八戸工業大学教授
学士(工学)		佐藤 友康		原子力工学概論B	東北電力株式会社東通原子力発電所副所長
修士(工学)		山田 立哉		原子力工学概論B	日本原燃(株)フェロー
短期大学士 (教育学・保育学)		佐々木真美		原子力工学概論B	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター運営グループ案内スタッフ
短期大学士 (社会学・社会福祉学)		舘 桃花		原子力工学概論B	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター運営グループ案内スタッフ
学士(教育学)		葛西 桃子		原子力工学概論B	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター運営グループ案内スタッフ
博士(理学)		大塚 良仁		原子力工学概論B	公益財団法人環境科学技術研究所環境影響研究部副主任研究員
理学士		加藤 崇		原子力基盤技術概論	(株)NAT常務取締役
準学士(工学)		川口 寿幸		原子力基盤技術概論	公益財団法人核物質管理センター主査
修士(工学)		廣田 賢司		原子力基盤技術概論	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構主査
博士(工学)		石山 武	技術者倫理		八戸工業大学工学部教授
理学博士		佐々木 有	技術者倫理		八戸高専名誉教授
MBA		佐藤 容紹	エンジニアリングデザインⅡ		みちのくみなと未来(株)



産業システム工学科

機械・医工学コース



機械・医工学コースでは機械システムを設計し、製作するための「基礎」から「応用」までを学習できるようにカリキュラムを設定しています。また、医療・福祉などの分野で様々な発想を形にできる創造性豊かなエンジニアを育成します。

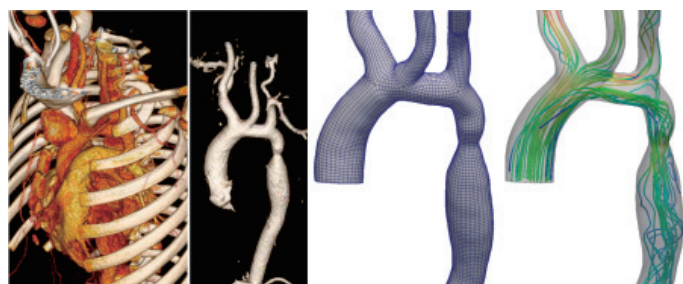
授業では、製図の基礎、コンピューターを利用した図面の作成（CAD）、図面に基づいた機械製法や工作機械のコンピュータ制御による加工法（CAM）を学びます。

さらに、システムの設計（デザイン）や制御（コントロール）に必要な工学基礎科目や高度な専門科目等を学びます。

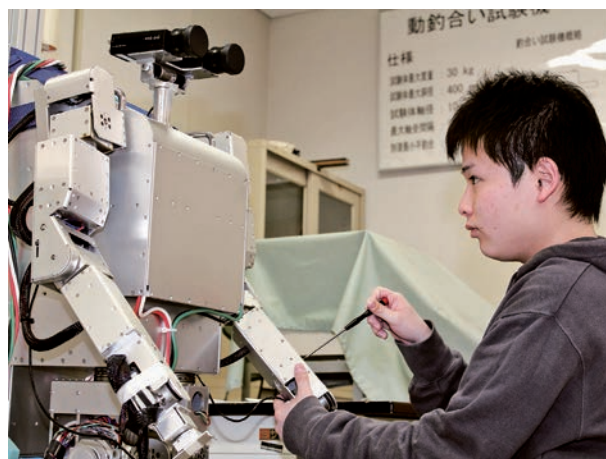
創造性を涵養する『自分で創って学ぶ』授業と実験・実習・卒業研究を重視した『ものづくり教育』が本コースの特徴です。5年生の卒業研究では、多くの学生が医工学に関する課題に取り組んでいます。

技術者としてのスキルを身につけるとともに、エネルギー問題や医療・福祉、地球環境問題等にグローバルに対応できる技術者の育成を目指し、大学の教授並びに企業技術者の方にも講義や講演をお願いしています。

21



ヒト大動脈内の血流シミュレーション



二足歩行ロボット

教育課程

(令和7年度以降入学者)

授 業 科 目			学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
					1年	2年	3年	4年	5年
両履修コース共通	必修科目	応用数学Ⅰ	①	1				1	
		応用数学Ⅱ	①	1				1	
		基礎力学		1		1			
		応用物理ⅠA		1			1		
		応用物理ⅠB	①	1			1		
		応用物理Ⅱ	①	1				1	
		情報処理ⅡA		1					1
		機械材料学ⅠA		1			1		
		機械材料学ⅠB	①	1			1		
		機械材料学Ⅱ		1				1	
		材料力学Ⅰ	②	2			2		
		材料力学Ⅱ		2				2	
		水力学	②	2				2	
		熱力学	②	2				2	
		機構学	①	1			1		
		計測工学		1					1
		機械力学B	①	1					1
		制御工学		1					1
		機械工作法Ⅲ		1					1
		機械設計法Ⅰ		1			1		
		機械設計法Ⅱ		1				1	
		機械設計製図Ⅰ		1	1				
		機械設計製図Ⅱ		3		3			
		機械設計製図Ⅲ		3			3		
		創造設計製図		3				3	
		3次元設計製図		2					2
		工作実習Ⅰ		3	3				
		工作実習Ⅱ		3		3			
		創造工作実習		3			3		
		機械・医工学セミナー		1				1	
		卒業研究		10					10
	必履修科目	応用数学Ⅲ	①	1				1	
		応用数学Ⅳ		1				1	
		情報処理Ⅰ		1				1	
		情報処理ⅡB		1					1
		機械力学A		1					1
		電気工学	①	1				1	
		機械工作法Ⅰ	①	1			1		
		機械工作法Ⅱ	①	1				1	
		バイオエンジニアリング概論	①	1					1
		CADⅠ		1			1		
		CADⅡ		1				1	
		集中英語演習Ⅳ	①	1				1	
		産業システム工学概論Ⅱ	①	1					1
		産業システム工学概論Ⅲ	①	1					1
		産業システム工学概論Ⅳ	①	1					1
医工履修 コース	必修 科目	医工履修コース実験Ⅰ		3				3	
		医工履修コース実験Ⅱ		2					2
	必履修 科目	流体力学	①	1					1
		伝熱工学	①	1					1
システムデザイン 履修コース	必修 科目	システムデザイン履修コース実験Ⅰ		3				3	
		システムデザイン履修コース実験Ⅱ		2					2
	必履修 科目	メカトロニクス	①	1					1
		ロボット工学	①	1					1
合計	両履修コース開設単位数			79	4	7	16	25	27
	両履修コース履修可能単位数			79	4	7	16	25	27

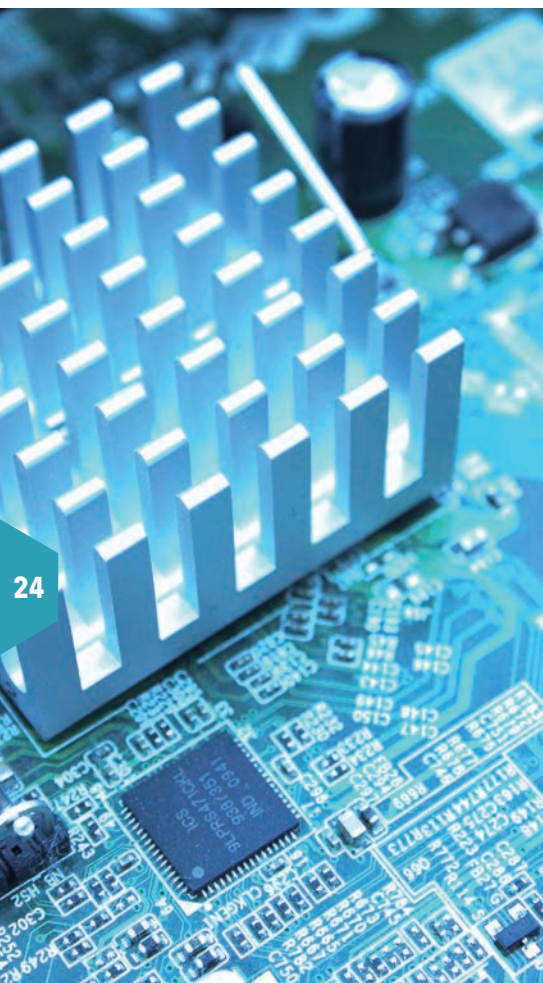
教 員

職名					
学位・称号	氏 名		主な専攻科担当科目	主な担当科目	備 考
教 授					
博士(工学)	沢村	利洋	Mコース実験	機械設計製図Ⅰ 流体力学 応用物理ⅠB	キャリア教育・学習支援 センター長
博士(工学)	古谷	一幸	機能性材料 Mコース実験	機械材料学ⅠB・Ⅱ	第5学年主任 M5担任
准教授					
工学士	村山	和裕	Mコース実験	CADⅡ 3次元設計製図 創造設計製図	機械・医工学コース長
博士(工学)	森	大祐	振動工学 Mコース実験	材料力学Ⅰ 水力学	M4担任
博士(工学)	井関	祐也	数値熱流体特論 Mコース実験	CADⅠ・Ⅱ 熱力学	教務主事補
博士(工学)	郭	福会	最適化手法 Mコース実験	計測工学 創造工作実習 ロボット工学	寮務主事補
講 師					
修士(工学)	黒沢	忠輝	Mコース実験	機械設計製図Ⅲ 機械力学A・B 応用物理ⅠA	M3担任
助 教					
博士(工学)	田口	恭輔	精密加工特論 Mコース実験	機械工作法Ⅰ・Ⅱ 機械設計法Ⅰ・Ⅱ	専攻科機械システムデザ インコース主任
博士(工学)	北川	広大	Mコース実験	機構学 情報処理Ⅰ・ⅡA・ⅡB メカトロニクス	
嘱託教授					
博士(工学)	武尾	文雄	材料強度学 Mコース実験	材料力学Ⅱ 機械設計製図Ⅲ	八戸高専名誉教授
非常勤講師					
博士(工学)	赤垣	友治		基礎製図	八戸高専名誉教授
博士(工学)	小宮	敦樹		伝熱工学	東北大学流体科学研究 所教授
博士(工学)	佐川	貢一		制御工学	弘前大学大学院理工学 研究科教授
工学博士	清水	友治		機械工作法Ⅲ	岩手大学理工学部非常 勤講師
博士(工学)	古川	琢磨	数値流体力学	流体工学	芝浦工業大学工学部准教 授



産業システム工学科

電気情報工学コース



電気・電子・情報に関する技術はあらゆる産業に深く関わり、その発展に大きく寄与している技術分野です。

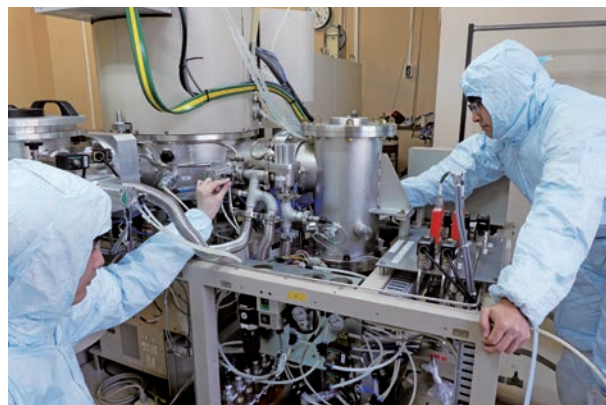
電気情報工学コースでは5年間の修学期間の中で、低学年においては電気電子系の基礎科目と情報技術の基礎科目を学習します。高学年では電気電子システム履修コースと知能情報システム履修コースに分かれて、それぞれ独立したカリキュラムで、より専門的な事項を学びます。

特に、実験実習に力を入れ、将来何か新しい「もの」を創造できる実践力のある指導的立場に立つ技術者の育成を目指しています。

このように電気情報工学コースは、従来の電気電子技術者となる人材はもちろんのこと、情報技術産業で幅広く活躍できる人材の育成を目的にしています。



ヒューマノイドロボット



半導体の作製

授 業 科 目			学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
					1年	2年	3年	4年	5年
両履修 コース共通	必修科目	応用数学Ⅰ	①	1				1	
		応用数学Ⅱ	①	1				1	
		応用物理Ⅰ A		1			1		
		応用物理Ⅰ B	①	1			1		
		応用物理Ⅱ	①	1				1	
		プログラミングⅡ	②	2		2			
		電気基礎Ⅰ		1	1				
		電気基礎Ⅱ		2		2			
		電磁気学Ⅰ		2			2		
		電磁気学Ⅱ		2				2	
		電気回路Ⅰ		2			2		
		電気回路Ⅱ		1				1	
		電子工学Ⅰ		2			2		
		電子工学Ⅱ		1				1	
		デジタル回路Ⅰ	②	2			2		
		電子回路設計Ⅰ		2				2	
		エネルギー変換工学		2			2		
		電気電子応用	①	1				1	
		ロボットエレクトロニクス	②	2			2		
		計測情報処理		1				1	
		制御工学Ⅰ		1				1	
		創成実験		2				2	
		実験実習Ⅰ		1	1				
		実験実習Ⅱ		2		2			
		実験実習Ⅲ		2			2		
		卒業研究		10					10
	必履修科目	応用数学Ⅲ	①	1				1	
		応用物理Ⅲ	①	1				1	
		プログラミングⅠ	②	2	2				
		電気回路Ⅲ		1					1
		デジタル回路Ⅱ	②	2				2	
		電子回路設計Ⅱ		1					1
		制御工学Ⅱ	①	2					2
		設計・製図		1					1
		コンピュータグラフィックス		1		1			
		電気電子材料	①	1					1
通信工学			1					1	
電子デバイス			1					1	
電子物性基礎		①	1					1	
メカニズム・設計概論		①	1				1		
集中英語演習Ⅳ		①	1				1		
産業システム工学概論Ⅰ		①	1					1	
産業システム工学概論Ⅲ		①	1					1	
産業システム工学概論Ⅳ		①	1					1	
電気電子システム 履修コース	必修科目	電気電子システム実験Ⅰ		3			3		
		電気電子システム実験Ⅱ		3				3	
	必履修科目	高電界工学	①	1				1	
		電力システム工学Ⅰ		1					1
		電力システム工学Ⅱ	①	1					1
		電気法規・電気施設管理		1				1	
知能情報システム 履修コース	必修科目	知能情報システム実験Ⅰ		3			3		
		知能情報システム実験Ⅱ		3				3	
	必履修科目	ソフトウェア設計法	①	1				1	
		システム情報工学		1					1
		計算機アーキテクチャ	①	1					1
		情報ネットワーク論		1				1	
合計	両履修コース開設単位数			79	4	7	16	25	27
	両履修コース履修可能単位数			79	4	7	16	25	27

教 員

職名					
学位・称号	氏 名		主な専攻科担当科目	主な担当科目	備 考
教 授					
博士(工学)	釜谷	博行	知能システム工学 電気情報システム工学 コース実験Ⅰ・Ⅱ	制御工学Ⅱ ソフトウェア設計法 通信工学	副校長(総合情報セン ター長・図書館長) 専攻科電気情報システ ム工学コース主任
博士(工学)	野中	崇	電気情報システム工学 コース実験Ⅰ	電磁気学Ⅰ 電力システム工学Ⅱ 電気電子システム実験Ⅰ	副校長(教務主事) 機能創成材料系長
博士(工学)	中村	嘉孝	電子物性 電気情報システム工学演習Ⅱ	電子物性基礎 電磁気学Ⅱ 電気電子システム実験Ⅱ	相談室長 E3担任
准教授					
博士(工学)	秋田	敏宏	システム・回路工学	電気基礎Ⅱ 知能情報システム実験Ⅰ・Ⅱ 産業システム工学概論Ⅱ	学生主事補 E4担任
博士(ソフト ウェア情報学)	細川	靖	電気情報システム工学 コース実験Ⅱ	知能情報システム実験Ⅰ ロボットエレクトロニクス コンピュータグラフィックス	電気情報工学コース長 ロボティクス系長
助 教					
博士(工学)	鎌田	貴晴		高電界工学 電気基礎Ⅰ	
博士(ソフト ウェア情報学)	赤川	徹朗	情報工学 電気情報システム工学演習Ⅰ	プログラミングⅠ デジタル回路Ⅰ・Ⅱ	E5担任
博士(工学)	利穂	吉郎	電磁気学特論	電子工学Ⅰ 電気電子材料	
非常勤講師					
博士(工学)	工藤	憲昌		電子回路設計Ⅰ・Ⅱ	八戸高専名誉教授
博士(工学)	松橋	信明		電子工学Ⅱ	八戸高専名誉教授
修士(工学)	菅谷	純一		電気回路Ⅰ・Ⅱ	
博士(工学)	大里	辰希	パワーエレクトロニクス特論		兵庫県立大学工学研究科 助教
準学士(工学)	細越	淳一		プログラミングⅠ	八戸高専名誉教授
工学博士	猪股	俊光		システム情報工学 (システム工学)	岩手県立大学ソフトウェア 情報学部教授
博士(学術)	田村	篤史		システム情報工学 (情報理論)	岩手県立大学ソフトウェア 情報学部准教授
博士(工学)	坂本	修一		システム情報工学 (音メディア工学)	東北大学電気通信研究所 教授
博士(工学)	長田	洋		電子デバイス	岩手大学理工学部教授
工学士	竹石	雄		電力システム工学Ⅰ	東北電力(株)八戸火力発電 所所長
修士(工学)	山田	立哉		電力システム工学Ⅰ	日本原燃(株)フェロー (技術広報担当)
短期大学士 (教育学・保育学)	佐々木	眞美		電力システム工学Ⅰ	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター 運営グループ案内スタッフ
短期大学士 (社会学・社会福祉学)	舘	桃花		電力システム工学Ⅰ	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター 運営グループ案内スタッフ
学士(教育学)	葛西	桃子		電力システム工学Ⅰ	六ヶ所げんねん企画(株)PRセンター 運営グループ案内スタッフ
准学士(工学)	高際	雅之	応用信号処理論		(株)ミッシュインターナショ ナル技術部課長
Ph.D. in Computer Science	柴田	義孝		情報ネットワーク論	岩手県立大学研究・地域 連携本部特命教授



産業システム工学科

マテリアル・バイオ工学コース



マテリアル・バイオ工学コースは、バイオを含めた化学の知識を活かし、さまざまな「ものづくり」の分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

まず、物質を構成する最小単位である原子や分子の仕組みについて学び、化学・材料・生物の基礎を身につけます。その上で、新しい材料や物質を設計し、それらを自在に製造する技術やシステムについて学びます。日常生活に欠かせないさまざまな素材の製造・加工技術に加え、微生物の力を利用した環境に優しいものづくりなど、幅広い分野にわたる知識と技術を学びます。

第4学年からは、それぞれの興味や進路に応じた学びを深めるため、「マテリアル工学履修コース」と「バイオ工学履修コース」に分かれます。マテリアル工学履修コースでは、金属やセラミックス、プラスチックといった工業材料の特性や製造技術を学びます。バイオ工学履修コースでは、生物の働きを活用した新しい技術や、食品・医薬品の製造プロセスなどについて学びます。

さらに、機械・医工学、電気情報、都市建築といった他分野の基礎的な知識を学ぶ機会があります。マテリアル・バイオ工学に関する深い知識や技術を軸に、異分野の知識を融合させて新しい技術を生み出す実践力と創造力を備えた技術者を育成することを目的としています。

マテリアル工学履修コース

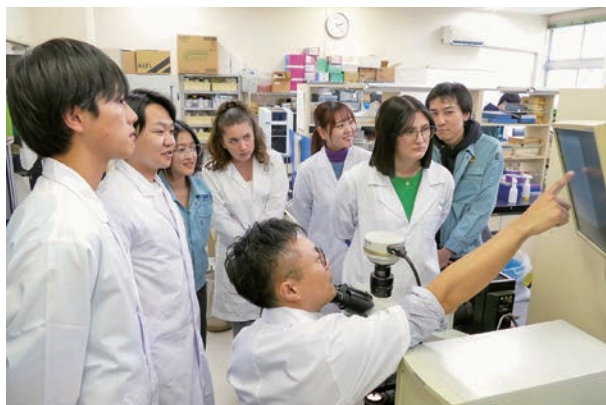
各種無機・有機・金属材料の合成、資源の変換と環境・エネルギー、プロセス・システム開発

バイオ工学履修コース

酵素や微生物の物質生産への応用、生物機能の工学的利用、生物資源の有効利用



ポリ酢酸ビニルの合成実験



蛍光顕微鏡によるヒト培養細胞の観察

教育課程

(令和7年度以降入学者)

授業科目			学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
					1年	2年	3年	4年	5年
両履修コース共通	必修科目	応用数学Ⅰ	(A)	1				1	
		応用数学Ⅱ	(A)	1				1	
		応用物理Ⅰ A		1			1		
		応用物理Ⅰ B	(A)	1			1		
		応用物理Ⅱ	(A)	1				1	
		無機化学Ⅰ A		1		1			
		無機化学Ⅰ B		1		1			
		無機化学Ⅱ		1			1		
		無機反応化学	(A)	1					1
		有機化学Ⅰ	(A)	1	1				
		有機化学Ⅱ		1		1			
		有機化学Ⅲ A		1			1		
		有機化学Ⅲ B		1			1		
		有機化学Ⅳ		1				1	
		高分子化学		1					1
		分析化学Ⅰ		1		1			
		分析化学Ⅱ	(B)	2			2		
		機器分析		1				1	
		物理化学Ⅰ A		1			1		
		物理化学Ⅰ B		1			1		
		物理化学Ⅱ	(B)	2				2	
		量子化学		1					1
		情報処理	(A)	1			1		
		化学工学	(B)	2			2		
		移動現象論Ⅱ		1					1
		反応工学 B	(A)	1					1
		分離工学 A	(A)	1					1
		分離工学 B		1					1
		生物化学		1			1		
		細胞生物学		1				1	
		発酵工学		1				1	
		分析化学実験		3		3			
		無機・有機化学実験		3			3		
		物理化学実験		3				3	
		卒業研究		10					10
	必履修科目	応用数学Ⅲ	(A)	1				1	
		応用物理Ⅲ	(A)	1				1	
		マテリアル・バイオ工学序論		1	1				
		基礎化学 A		1	1				
		基礎化学 B		1	1				
		有機合成化学	(A)	1				1	
		移動現象論Ⅰ	(A)	1				1	
		反応工学 A	(A)	1					1
		計測制御	(A)	1					1
		材料強度学	(B)	2				2	
		創成化学		1				1	
化学演習		(A)	1				1		
マテリアル・バイオ工学セミナーⅠ			1				1		
マテリアル・バイオ工学セミナーⅡ			1					1	
集中英語演習Ⅳ		(A)	1				1		
産業システム工学概論Ⅰ		(A)	1					1	
産業システム工学概論Ⅱ		(A)	1					1	
産業システム工学概論Ⅳ		(A)	1					1	
履修コース	必修科目	マテリアル工学実験Ⅰ		2			2		
		マテリアル工学実験Ⅱ		2				2	
	必履修科目	構成材料学	(A)	1				1	
		機能性材料		1				1	
		有機工業化学	(A)	1				1	
履修コース	必修科目	バイオ工学実験Ⅰ		2			2		
		バイオ工学実験Ⅱ		2				2	
	必履修科目	分子生物学 A		1				1	
		分子生物学 B	(A)	1				1	
		細胞工学	(A)	1			1		
合計	両履修コース開設単位数			79	4	7	16	25	27
	両履修コース履修可能単位数			79	4	7	16	25	27

教 員

職名					
学位・称号	氏 名	主な専攻科担当科目		主な担当科目	備 考
教 授					
博士(工学)	齊藤 貴之			物理化学	産業システム工学科長 マテリアル・バイオ工学 コース長 環境・バイオテクノロ ジー系長
博士(工学)	佐藤久美子	有機反応論		有機化学 有機工業化学 高分子化学	副校長(寮務主事)
博士(工学)	本間 哲雄			分離工学 計測制御	
博士 (生命科学)	山本 歩	生物学概論 生体代謝化学		発酵工学 分子生物学 生物化学 細胞工学 細胞生物学	専攻科マテリアル・バイ オ工学コース主任
准教授					
博士 (環境科学)	新井 宏忠	材料化学		化学工学 材料強度学 構成材料学	C5担任
博士(工学)	門磨 義浩	セラミックス材料学		無機化学 機能性材料 分析化学	廃水処理施設長
助 教					
博士(工学)	川口 恵未	マテリアル・バイオ工学 演習		有機化学 有機合成化学	
博士(工学)	丸岡 大佑	材料化学		無機化学 無機反応化学	第4学年主任 C4担任
博士(工学)	北村 洋樹	物理化学特論		基礎化学 分析化学 量子化学	C3担任
博士(工学)	関 淳志	分析化学特論		情報処理 基礎化学 機器分析	
嘱託教授					
博士(工学)	松本 克才	プロセス工学		移動現象論 反応工学	八戸高専名誉教授
非常勤講師					
工学博士	猪股 宏			分離工学	東北大学未来科学技術 共同研究センター特任 教授
工学博士	大友 征宇			量子化学	茨城大学大学院理工学 研究科教授
博士(工学)	長谷川 章			マテリアル・バイオ工学 セミナー	福井高専校長
博士(工学)	菅原 優			マテリアル・バイオ工学 セミナー	島根大学材料エネル ギー学部教授



産業システム工学科

環境都市・建築デザインコース



私達が安全・安心かつ健康的に毎日の生活を送るためには、道路・橋・鉄道・港湾・上下水道・住宅・病院・学校などの社会資本整備が必要です。その資本整備の際には、様々な変化に対応することが求められるようになりました。例えば地球的規模では低環境負荷や省エネルギーといった環境性能が、また都市や地方の社会・生活環境では少子高齢化や人口減少など構造的変化に対し、創造力豊かな「ものづくり」を提案できるデザイン力が要請されています。

本コースでは、このような整備のための技術やシステムをグローバルに学び、創造的にデザインする実践的技術者を育成するためのカリキュラムを用意しています。また、高学年からはより専門的分野の履修が可能となり、従来の社会基盤整備・システムに関する環境都市分野に加え、H21年度から導入している建築デザイン分野の拡充もいたしました。建設・防災・環境・計画・建築をキーワードとして、それぞれの分野に関する知識と技術を身に付け、創造力あふれた「ものづくり」に強い実践的技術者を育成するためのカリキュラムが用意されています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い人命が奪われ、社会資本も甚大な被害を受けました。社会基盤整備を専門とする技術者として、自然災害の多い国土保全・防災そして創造的復興という大きな課題に向け、1日も早く安全・安心に暮らせる都市環境づくりを実現するのは未来の創造的技術者の手にかかっています。



コンクリート断面の空気泡測定



地盤の圧密試験

授 業 科 目			学修 単位	開 設 単位数	学年別配当				
					1年	2年	3年	4年	5年
両履修コース共通	必修科目	応用数学Ⅰ	①	1				1	
		応用数学Ⅱ	①	1				1	
		応用物理ⅠA		1			1		
		応用物理ⅠB	①	1			1		
		応用物理Ⅱ	①	1				1	
		プログラミングⅠ		1				1	
		プログラミングⅡ		1					1
		建築製図Ⅰ		1		1			
		建築製図Ⅱ		2			2		
		測量学・同実習Ⅰ		3	3				
		測量学・同実習Ⅱ		2		2			
		測量学・同実習Ⅲ		1			1		
		CAD		1	1				
		建設材料学Ⅰ	①	1		1			
		建設材料学Ⅱ	①	1			1		
		構造力学Ⅰ		2		2			
		構造力学Ⅱ		2			2		
		RC構造学	①	2				2	
		地盤工学Ⅰ		2			2		
		地盤工学Ⅱ		2				2	
		水理学Ⅰ		2			2		
		水環境工学A	①	1				1	
		水環境工学B	①	1				1	
		住居計画	①	1		1			
		建築計画	①	2			2		
		建築史		1					1
		環境工学A		1					1
		環境工学B	①	1					1
		建築環境工学	①	2				2	
		建築設備		1					1
		都市・地域計画		1					1
		建築法規		1					1
		建設生産施工A		1					1
		橋梁工学		1				1	
		建設工学実験Ⅰ		2			2		
		建設工学実験Ⅱ		3				3	
		卒業研究		10					10
	必修科目	応用数学Ⅲ	①	1				1	
		応用物理Ⅲ	①	1				1	
		測量学・同実習Ⅳ		1					1
		構造力学Ⅲ	②	2				2	
		水理学Ⅱ		2				2	
		耐震耐風工学	①	1					1
		建設生産施工B		1					1
		計画数理		1				1	
		河川・海岸工学		1					1
		建設工学実験Ⅲ		1					1
		集中英語演習Ⅳ	①	1				1	
		産業システム工学概論Ⅰ	①	1					1
		産業システム工学概論Ⅱ	①	1					1
		産業システム工学概論Ⅲ	①	1					1
環境都市 デザイン 履修コース	必修科目	RC構造設計製図		1				1	
	必修科目	橋梁工学設計製図		1					1
建築 デザイン 履修コース	必修科目	建築デザイン製図Ⅰ		1				1	
	必修科目	建築デザイン製図Ⅱ		1					1
合計	両履修コース開設単位数			79	4	7	16	25	27
	両履修コース履修可能単位数			79	4	7	16	25	27

教 員

職名					
学位・称号	氏 名		主な専攻科担当科目	主な担当科目	備 考
教 授					
博士(工学)	南	將人	海岸港湾工学	河川・海岸工学／水理学	副校長(研究担当・地域テクノセンター長) 環境都市・建築デザインコース長
博士(工学)	藤原	広和	水理学特論	水理学／測量学・同実習	空間構造デザイン系長 Z5担任
博士(工学)	丸岡	晃	環境都市・建築デザイン工学演習	構造力学／測量学・同実習	副校長(専攻科長) 再生可能エネルギー系長
准教授					
博士(工学)	杉田	尚男	構造解析学特論	構造力学／橋梁工学	
博士(工学)	清原	雄康	地盤工学特論	地盤工学／耐震工学	寮務委員
博士(工学)	馬渡	龍	建築デザイン特論	建築計画／住居計画	教務主事補
博士(工学)	金	善旭	建築構法特論	建設生産施工／CAD	第3学年主任 Z3担任
博士(工学)	李	善太	環境エネルギー工学	水環境工学／環境工学	副専攻科長 専攻科環境都市・建築デザインコース主任
博士(工学)	重	浩一郎	地域計画学特論	都市・地域計画／計画数理	厚生補導委員
助 教					
博士(工学)	エンケホルワ	建築史特論		建築史／基礎製図	Z4担任
非常勤講師					
博士(工学)	内藤	英樹		耐震・耐風工学	東北大学大学院工学研究科准教授
準学士(工学) 技術士(建設部門)	蝦名	崇宏		建設生産施工	ピーエス・コンストラクション(株)東北支店 土木工務部長技術士(建設部門)
学士(工学) 技術士(建設部門)	中村	淳一		建設生産施工	ピーエス・コンストラクション(株)東北支店 部長兼土木技術指導部長技術士(建設部門)
学士(工学) 一級建築施工管理技士	大井	紀一		建設生産施工	ピーエス・コンストラクション(株)東北支店 部長
修士(理工学) 一級建築士	江口	尚之		建設生産施工	ピーエス・コンストラクション(株)東北支店 建築設計グループリーダー
博士(工学)	森	太郎		建築環境工学	北海道大学大学院工学研究院教授
学士(芸術工学) 二級建築士	大塚	陽		建築製図Ⅰ	オオツカヨウ建築設計代表
修士(建築学) 一級建築士	白鳥	ゆき		建築製図Ⅱ	白鳥ゆき建築設計事務所 代表
		田中健太郎		測量学・同実習Ⅰ	エイコウコンサルタンツ(株) 技術部測量課係長
工学士	今野	恵喜		測量学・同実習Ⅱ	八戸高専名誉教授
博士(工学)	宮本	慎太郎	建設材料学特論		東北大学大学院工学研究科准教授
博士(工学)	上原子	晶久	建設材料学特論		弘前大学理工学研究科准教授
学士(工学) 一級建築士	中田	憲明		都市・建築法規	(株)住宅建築センター業務部副参事
博士(工学)	菅原	隆		建設工学実験Ⅰ	八戸高専名誉教授
博士(工学)	迫井	裕樹		建設材料学Ⅱ／RC構造学	八戸工業大学教授
工学士	鈴木	英宗		環境工学A	青森県県土整備部整備企画課企画・防災公共推進グループ課長
一級建築士	葛西	瑞都		建築デザイン製図Ⅱ	(株)mizuiro architects 一級建築士事務所
学士(工学) 土地家屋調査士	高見	雅之		測量学・同実習Ⅳ	高見土地家屋調査士事務所代表



専攻科



目的

近年の科学技術の高度化、社会的ニーズの多様化に伴い、より深い専門的知識をもち幅広い視野から課題設定と問題解決のできる研究開発能力を備えた実践的技術者が求められています。この社会的要求に応えるため、八戸工業高等専門学校専攻科は、平成14年4月に従来の高専教育の上にさらに2年間の高度な専門教育を行うことを目的に設置されました。これまでの5年間一貫の実践的教育を生かしながら、さらに専攻科において、より高度の学問と技術を教授し、人間性と創造性が豊かで研究開発能力を兼ね備え、これからの「ものづくり」や「システムづくり」を先導できる実践的専門技術者の育成を行います。

本校専攻科は、1専攻（産業システム工学専攻）・4コース（機械システムデザイン、電気情報システム工学、マテリアル・バイオ工学、環境都市・建築デザイン）で構成されています。本専攻科の課程を修め、（独）大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すると、学士（工学）の学位が授与され、大学院への入学資格が得られます。

特色

特別研究、コース実験を重視した教育・研究

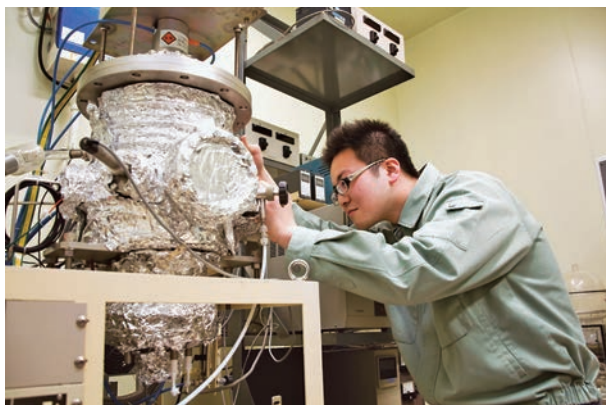
実践力、創造力、研究開発能力を有する人材を育成するため特別研究、コース実験を重視しています。特に特別研究では、入学するとすぐに選択された各専門分野の研究テーマについて研究室の指導教員のもとでレベルの高い研究に取り組むことになります。

基礎力を固め、視野を広げる教育

国際的に通用する表現力や数理的解析力を強化するため英語と数学を必修化し、さらに社会系科目や専門分野の横断的科目の学習で大きく視野を広げます。

高専本科との継続と将来の発展性を考慮した少人数教育

高専本科5年間の実践的教育との継続性を考慮し、かつ将来の研究開発に必要な専門科目の講義や演習を開設しています。このため少人数クラスできめ細かく密度のある教育を行います。



新機能薄膜の生成



産業システム工学専攻

機械システムデザインコース

機械工学は基幹産業の基盤となる分野です。機械設計、加工、制御、電気電子機器、材料及びデバイス、情報・通信技術などの理論とその応用について深く学習し、創造力溢れる、高度な研究開発能力を有する実践的エンジニアの育成を行います。



金属材料の疲労試験

電気情報システム工学コース

電気情報システム工学は基幹産業の基盤となる分野で、エネルギー・電力システム、電子物性・電子デバイス、IT・知能ロボット技術などの理論と応用について深く学習し、創造力と研究開発能力を有する実践的エンジニアの育成を行います。



太陽電池

マテリアル・バイオ工学コース

生物機能を物質生産に応用する生物工学を含み、新しい材料の開発と生産に関する化学とその応用領域について深く学習し、創造力溢れる、高度な研究開発能力を有する実践的エンジニアの育成を行います。



高分子合成実験

環境都市・建築デザインコース

建設・建築工学の応用分野（建設系、計画系、水工系、環境系、建築系）における専門科目を深く学習し、環境保全と再生および安全・安心で持続的発展が可能な社会の実現のために貢献できる、創造力溢れる総合建設技術者や開発研究型の技術者の育成を行います。



材料引張試験

(令和2年度以降入学者)

教育課程〈一般科目・専攻共通科目〉

科目・専攻共通科目)			単位数	学年別配当			
				1年		2年	
				前期	後期	前期	後期
授 業 科 目							
一般科目	必修科目	表現法	1			1	
		人文社会科学要論A	2				2
		総合英語A	2	2			
		総合英語B	2			2	
		物理学要論	2	2			
		化学要論	2	2			
		生物学概論	2			2	
		開設単位計	13	6	0	5	2
	選択科目	人文社会科学要論B	2				2
		総合英語C	1				1
	開設単位計	3	0	0	0	3	
開設単位合計			16	6	0	5	5
専攻共通科目	必修科目	応用数学A	2	2			
		応用数学演習	1	1			
		情報工学	2			2	
		技術者倫理	1				1
		環境エネルギー工学	2				2
		最適化手法	2			2	
		材料化学	2			2	
		エンジニアリングデザインⅠ	1	1			
		開設単位計	13	4	0	6	3
	選択科目	物性物理学	2				2
		応用数学B	2			2	
		エンジニアリングデザインⅡ	2		2		
		学外研修(短期)Ⅰ～Ⅳ	4		4		
			開設単位計	10	0	6	2
開設単位合計			23	4	6	8	5

35

(令和4年度以降入学者)

教育課程〈コース専門科目〉

（令和4年度以降入学者）

専 門 科 目		単位数	学年別配当				
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
授 業 科 目							
■機械システムデザインコース							
必修科目	機械システムデザインコース実験Ⅰ	2	2				
	機械システムデザイン工学演習Ⅰ	1	1				
	機械システムデザイン工学演習Ⅱ	1			1		
	特別研究Ⅰ A	2	2				
	特別研究Ⅱ	10			5	5	
	開設単位計	16	5	0	6	5	
選択科目	機械システムデザインコース実験Ⅱ	1		1			
	機械システムデザイン工学研修	1		1			
	特別研究Ⅰ B	5		5			
	材料強度学	2	2				
	精密加工特論	2			2		
	数値流体力学	2	2				
	数値熱流体特論	2	2				
	振動工学	2	2				
	機能性材料	2					2
	開設単位計	19	8	7	2	2	
開設単位合計		35	13	7	8	7	

教育課程〈コース専門科目〉

専 門 科 目		単位数	学年別配当			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
授 業 科 目						
■電気情報システム工学コース						
(令和4年度以降入学者)						
必修科目	電気情報システム工学コース実験Ⅰ	2	2			
	電気情報システム工学演習Ⅰ	1	1			
	電気情報システム工学演習Ⅱ	1			1	
	特別研究ⅠA	2	2			
	特別研究Ⅱ	10			5	5
	開設単位計	16	5	0	6	5
選択科目	電気情報システム工学コース実験Ⅱ	1		1		
	電気情報システム工学研修	1		1		
	特別研究ⅠB	5		5		
	電磁気学特論	2	2			
	システム・回路工学	2	2			
	電子物性	2	2			
	知能システム工学	2	2			
	応用信号処理論	2			2	
	パワーエレクトロニクス特論	2				2
開設単位計	19	8	7	2	2	
開設単位合計		35	13	7	8	7

■マテリアル・バイオ工学コース (令和4年度以降入学者)						
必修科目	マテリアル・バイオ工学コース実験Ⅰ	2	2			
	マテリアル・バイオ工学演習Ⅰ	1	1			
	マテリアル・バイオ工学演習Ⅱ	1			1	
	特別研究ⅠA	2	2			
	特別研究Ⅱ	10			5	5
	開設単位計	16	5	0	6	5
選択科目	マテリアル・バイオ工学コース実験Ⅱ	1		1		
	マテリアル・バイオ工学研修	1		1		
	特別研究ⅠB	5		5		
	物理化学特論	2	2			
	有機反応論	2			2	
	生体代謝化学	2	2			
	分析化学特論	2	2			
	プロセス工学	2	2			
	セラミックス材料学	2				2
	開設単位計	19	8	7	2	2
開設単位合計		35	13	7	8	7

■環境都市・建築デザインコース (令和7年度以降入学者)						
必修科目	環境都市・建築デザインコース実験Ⅰ	2	2			
	環境都市・建築デザイン工学演習Ⅰ	1	1			
	環境都市・建築デザイン工学演習Ⅱ	1			1	
	特別研究ⅠA	2	2			
	特別研究Ⅱ	10			5	5
	開設単位計	16	5	0	6	5
選択科目	環境都市・建築デザインコース実験Ⅱ	1		1		
	環境都市・建築デザイン工学研修	1		1		
	特別研究ⅠB	5		5		
	構造解析学特論	2	2			
	海岸港湾工学	2				2
	水理学特論	2	2			
	地域計画学特論	2			2	
	建設材料学特論	2	2			
	地盤工学特論	2	2			
	建築デザイン特論	2	2			
	建築史特論	2	2			
	建築構法特論	2				2
	開設単位計	25	12	7	2	4
開設単位合計		41	17	7	8	9



総合情報センター



第1 パソコン室



第2 パソコン室

総合情報センターは、本校の情報処理教育及びマルチメディア教育を計画的に行うことを目的に1993年4月に新設されました。

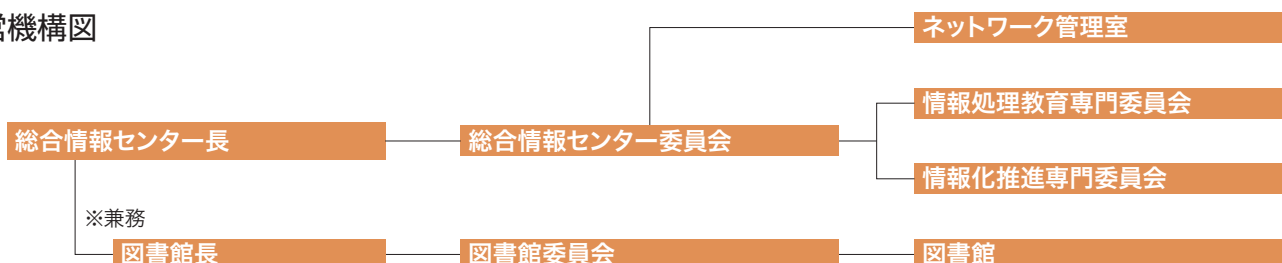
センターは、導入教育やプログラミング教育、実験実習、ネットワーク教育及び卒業研究など自由な使用環境のもとで有効に活用されています。また、平成10年度より高度情報通信時代に向けて図書館情報システムを整備し、メディアセンターとして広く利用されるようになりました。

現在のパソコン室は令和4年度末に更新されており、セキュリティに配慮したネットワークブートシステムを導入しております。また、この更新に合わせて、創造設計室内に新たに教育用CADシステムを整備し、機械設計等においても有効活用できるようになりました。

■主な業務

- 図書館に関すること
- 第1パソコン室、第2パソコン室、創造設計室CADシステム及び図書館パソコンコーナーの管理運営に関すること
- 情報処理教育に関すること
- グループウェアの利用に関すること
- ITシステムの利活用に関すること
- ネットワークの管理に関すること
- その他総合情報センターに関すること

運営機構図

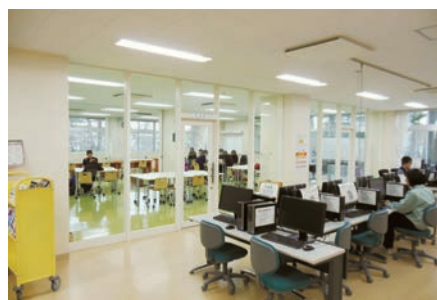


パソコン室の概要

区分	第1パソコン室(49台) 第2パソコン室(50台)	図書館パソコンコーナー (18台)	創造設計室CADシステム (53台)
機種名	DELL OptiPlex 3000 スモールシャーシ	DELL OptiPlex 3000 スモールシャーシ	DELL OptiPlex 3000 スモールシャーシ
主記憶容量	8 GB	8 GB	16GB
OS	Windows 11 Enterprise Ubuntu 22.04 LTS (Linux)	Windows 11 Enterprise Ubuntu 22.04 LTS (Linux)	Windows 11 Enterprise Ubuntu 22.04 LTS (Linux)
Windows用 ソフトウェア	Microsoft Office Pro Plus 2021 LibreOffice Visual Studio Community 2022 AutoCAD 教育版 Jw_cad GeoGebra Scilab	Microsoft Office Pro Plus 2021 LibreOffice Visual Studio Community 2022 AutoCAD 教育版 Jw_cad GeoGebra Scilab	Microsoft Office Pro Plus 2021 LibreOffice Visual Studio Community 2022 AutoCAD 教育版 Jw_cad GeoGebra Scilab AutoCAD Mechanical 教育版 Fusion 360 教育版 SolidWorks 教育版
Linux用 ソフトウェア	LibreOffice gcc, g++, gfortran, gnuplot GeoGebra Gaussian03	LibreOffice gcc, g++, gfortran, gnuplot GeoGebra	LibreOffice gcc, g++, gfortran, gnuplot GeoGebra



明るく開放的な閲覧室



交流室・パソコンコーナー

図書館は、閲覧室、交流室、開架書庫、閉架書庫、参考図書コーナー、資格試験コーナー、新聞閲覧コーナー、パソコンコーナー等を備え、学生及び教職員はもとより、学外の方も利用できる施設です。

■開館時間

平 日 午前8時45分～午後8時
 （ただし、到達度試験10日前からは ～午後9時）
 （ただし、学生の長期休業期間は ～午後5時）
 土曜日 午前10時 ～午後5時

■休館日

日曜日、国民の休日、年末年始等、学生の長期休業期間の土曜日

■貸出冊数及び期間

冊数：5冊以内
 期間：15日以内

蔵書

蔵書冊数及び雑誌種類数

（令和7年3月31日現在）単位：冊・種

蔵書冊数			雑誌種類数		
和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
64,294	7,147	71,441	36	6	42

視聴覚資料種類数

（令和6年3月31日現在）単位：種

LD	DVD	ビデオテープ
133	27	44

受入冊数

（令和6年度）単位：冊

和図書	洋図書	合計
277	2	279

利用状況

図書館利用状況

（令和6年度）単位：人

平常時間帯			延長時間帯・土曜・休日			合計		
学内	学外	小計	学内	学外	小計	学内	学外	合計
52,709	184	52,893	20,198	32	20,230	72,907	216	73,123

図書館貸出状況

（令和6年度）単位：冊

図 書	雑 誌	合 計
4,212	58	4,270

視聴覚資料利用状況

（令和6年度）単位：件

LD	DVD	ビデオテープ
0	1	0



地域テクノセンター



シーズ検索

<https://www.hachinohe-ct.ac.jp/seeds/index.php>



北東北地区大学高専交流会

地域テクノセンターは、本校教員が独自に進めてきた基礎的研究をさらに発展させ、地域の特性に密着した工業技術の研究開発をコースの枠を超えて推進する産学官連携のための共同研究機関です。

本センターでは、これらの研究結果を通して先駆的、独創的かつ幅広い視野に立脚した実践的技術者を養成するとともに、産・官・学・金交流の拠点として、また、地域企業との交流に関する学外諸団体との連絡窓口としての役割を積極的に進め、民間機関との共同研究等の場を通して地域への技術的貢献を積極的に行い、地域社会の発展に貢献することを目的としています。

■主な業務

- 産・学・官・金交流に関する業務
- 地域企業に対する技術指導
- 共同研究・受託研究及び試験研究の受入に関する業務
- 出前授業・公開講座（高度技術者養成研修を含む）の実施
- 地域企業等と連携した講演会の実施・協力並びに講師派遣
- 学内における学科横断プロジェクト研究の促進
- センター報の発行
- 企業内容説明会の実施
- 卒業生の地元定着や地域産業のイノベーション促進に関する事業

組織

センター長

センター委員会

産学交流部

教育研究部

教育研究支援センター

事務局



出前授業



キャリア教育プログラム（企業内容説明会）



企業等見学会の受入れ



ものづくりセンター



ものづくりセンター



自動ロックチェアの試作（卒業研究）

ものづくりセンターは、昭和40年に機械工作実習教育施設として、木型工場、鋳造工場、溶接工場、機械工場、プログラミング室、手仕上げ・組み立て工場及び内燃機関実験室を合わせて、631㎡の広さの建物が設置されました。

工業高等専門学校における実験・実習は極めて重要な科目であり、特に「工作実習」は機械・医工学コースにおける中核をなす専門科目の1つです。

ものづくりセンターは、機械工作実習担当教員を中心に4名の専任技術職員が、協力・連携して教授内容を吟味し、下記の主要機械設備を活用して機械・医工学コース本科第1～3学年の「工作実習」や「創造工作実習」を行なっています。また、本科第4・5学年の「工学実験」・「卒業研究」、専攻科生1・2学年の「特別研究」や「ロボコン」、「自動車工学部」等の課外活動にも活用されています。電気情報工学コース本科2学年の「実験実習Ⅱ」も実施しています。

平成5年度から、本科第4学年が「創造設計製図」の授業で設計した「電動カート」や「圧縮空気を動力とするミニSL」を本科第3学年の「創造工作実習」で製作する「総合実習」を実施しています。

平成20年度に、ものづくりセンター建屋の全面改修がなされ、新しくなりました。また、平成21年度には、小型旋盤（12台）、NC旋盤、円筒研削盤、平面研削盤等が設備更新されました。

さらに平成25年度には、レーザー加工機、NC装置付旋盤、5軸マシニングセンタが設備更新され、令和3年度には立形マシニングセンタ、NCフライス盤が設備更新されました。

主要機械設備名

工場	設備名	数量	工場	設備名	数量
木型工場	木工旋盤	1	鋳造工場	ショットタンブラスト	1
	卓上ボール盤	1		コンプレッサー	1
	木工万能機	1		サンドミキサー	1
	帯鋸機	1		砂篩機	1
	糸鋸機	1		可傾式つぼ炉	1
	角のみ機	1	機械工場	5軸マシニングセンタ	1
溶接工場	両頭グラインダー	1		マシニングセンタ	1
	交流溶接機	4		NCフライス盤	2
	スポット溶接機	1		CNC旋盤	1
	炭酸ガス溶接機	1		NC装置付旋盤	1
	ガス溶接機	3		実習用旋盤	13
	TIG溶接機	3		コンタマシン	1
	自動ガス切断機	2		ワイヤーカット放電加工機	1
	レーザー加工機	1		精密平面研削盤	1
	画像測定機	1		円筒研削盤	1
手仕上げ工場	高速切断機	1		NC放電加工機	1
	ボール盤	3		両頭グラインダー	3
	ドリル研削盤	1			
	ベルトサンダー	1			
	バンドソー	1			
	折曲機	1			
	シャーリング	1			



産学官金連携協定

八戸工業高等専門学校は、研究者の学術相互交流・相互履修・教育交流・教育研究協力を目的とした学学協定、人材の活用・ノウハウの共有を目的とした学官協定、地域社会への貢献を目的とした学金協定、及び国際交流を目的とした協定を締結した。

協定締結状況

令和7年4月1日現在

締結年月日	締結機関	協定の標題
平成17年9月1日	東北大学大学院工学研究科・情報科学研究科・環境科学研究科 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 宮城工業高等専門学校 仙台電波工業高等専門学校 秋田工業高等専門学校	東北大学大学院工学研究科・情報科学研究科及び環境科学研究科と八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、宮城工業高等専門学校、仙台電波工業高等専門学校及び秋田工業高等専門学校との学術交流に関する協定
平成17年12月1日	フランス共和国リールA技術短期大学 八戸工業高等専門学校	日本国八戸工業高等専門学校とフランス共和国リールA技術短期大学における学術交流に関する協定
平成18年1月27日	弘前大学理工学部 八戸工業高等専門学校	弘前大学理工学部と八戸工業高等専門学校との間における相互履修に関する協定
平成18年3月10日	八戸市 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と八戸市との相互友好協力協定
平成18年8月30日	商工組合中央金庫八戸支店 八戸工業高等専門学校	産学連携の協力推進に係る協定
平成19年6月8日	八戸聖ウルスラ学院高等学校 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と八戸聖ウルスラ学院高等学校との教育交流に関する協定
平成19年10月26日	八戸工業大学 八戸大学 八戸工業高等専門学校	八戸工業大学、八戸大学及び八戸工業高等専門学校の学術交流に関する協定
平成19年11月15日	青森銀行 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と株式会社青森銀行との連携協力協定
平成19年11月22日	みちのく銀行 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と株式会社みちのく銀行との産学連携協力協定
平成20年3月25日	弘前大学大学院理工学研究科 八戸工業高等専門学校	弘前大学大学院理工学研究科と八戸工業高等専門学校との教育研究協力に関する協定
平成20年5月1日	東北大学大学院医工学研究科 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 宮城工業高等専門学校 仙台電波工業高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校	東北大学大学院医工学研究科と東北地区7高専の学術交流協定
平成21年2月12日	エドグレン高等学校 八戸工業高等専門学校	2校間の姉妹校締結
平成21年3月6日	公立大学法人青森県立保健大学 八戸工業高等専門学校	2校間の学術研究に関する交流協定
平成21年9月28日	青森県立図書館長 八戸工業高等専門学校	2機関の連携・協力に関する協定
平成21年10月28日	山形大学工学部 八戸工業高等専門学校	2校間の教育研究交流に関する協定
平成22年5月4日	フランス共和国エックサン・プロバンス技術短期大学 八戸工業高等専門学校	日本国八戸工業高等専門学校とフランス共和国エックサン・プロバンス技術短期大学における学術交流に関する協定
平成23年4月1日	東北大学サイバーサイエンスセンター 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校	東北大学サイバーサイエンスセンターと八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、仙台高等専門学校、秋田工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校との学術交流に関する協定

締結年月日	締結機関	協定の標題
平成23年10月20日	弘前大学大学院理工学研究科 八戸工業高等専門学校 岩手大学理工学部 一関工業高等専門学校	4校の研究・教育分野の相互協力に関する協定
平成23年11月22日	北陸先端科学技術大学院大学 八戸工業高等専門学校	北陸先端科学技術大学院大学と八戸工業高等専門学校との推薦入学に関する協定
平成24年2月3日	フィンランド国ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学、トゥルク応用科学大学 東北地区6高専	フィンランド国ヘルシンキのメトロポリア及びトゥルクの両応用科学大学と東北地区6高専との学術交流協定
平成24年6月24日	フランス共和国アルトワ大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 函館工業高等専門学校	フランス共和国アルトワ大学と八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、仙台高等専門学校、秋田工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校、福島工業高等専門学校、函館工業高等専門学校との学術交流協定
平成25年10月28日	建築資料研究所(日建学院) 八戸工業高等専門学校	建設環境工学科が主催する資格取得支援講座に関する覚書締結
平成26年2月10日	早稲田大学大学院情報生産システム研究科 八戸工業高等専門学校	推薦入学に関する覚書
平成26年7月9日	北陸先端科学技術大学院大学 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と北陸先端科学技術大学院大学との推薦入学に関する協定書
平成27年6月17日	フランス共和国リールA技術短期大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 旭川工業高等専門学校 函館工業高等専門学校 小山工業高等専門学校 長岡工業高等専門学校 岐阜工業高等専門学校	フランス共和国リールA技術短期大学と東北地区高専及び函館高専・小山高専との学術交流協定
平成27年9月7日	ベトナム Central Region College of Technology Economics and Water Resources (CKT) 八戸工業高等専門学校	ベトナム Central Region College of Technology Economics and Water Resources (CKT) と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成27年11月26日	弘前大学 青森県 青森市 弘前市 八戸市 むつ市 青森県立保健大学 東北女子大学 八戸工業大学 弘前学院大学 八戸学院大学 青森中央学院大学 弘前医療福祉大学 青森中央短期大学 八戸工業高等専門学校	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力協定
平成27年12月3日	蘭州理工大学 八戸工業高等専門学校	八戸工業高等専門学校と蘭州理工大学との教育及び研究における交流と連携に関する覚書

協定締結状況

締結年月日	締結機関	協定の標題
平成28年1月13日	フランス共和国リアルA技術短期大学 フランス共和国プロワ技術短期大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 函館工業高等専門学校 小山工業高等専門学校	フランス共和国リアルA技術短期大学、プロワ技術短期大学と東北地区高専及び函館高専・小山高専との学術交流協定
平成28年3月1日	フランス共和国リアルA技術短期大学 フランス共和国ルアーブル技術短期大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 函館工業高等専門学校 小山工業高等専門学校	フランス共和国リアルA技術短期大学、ルアーブル技術短期大学と東北地区高専及び函館高専・小山高専との学術交流協定
平成28年5月31日	フランス共和国リアルA技術短期大学 フランス共和国リトラル・コート・ドバル技術短期大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 函館工業高等専門学校 小山工業高等専門学校	フランス共和国リアルA技術短期大学、リトラル・コート・ドバル技術短期大学と東北地区高専及び函館高専・小山高専との学術交流協定
平成28年7月26日	建築資料研究所(日建学院) 八戸工業高等専門学校	産業システム工学科環境都市・建築デザインコースが主催する資格取得支援講座に関する覚書(更新)
平成28年7月27日	三沢市 八戸工業高等専門学校	三沢市と八戸工業高等専門学校との連携に関する協定書
平成28年12月8日	ニュージーランドオタゴポリテクニク 八戸工業高等専門学校	ニュージーランドオタゴポリテクニクと八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成29年3月17日	新モンゴル工業高等専門学校 八戸工業高等専門学校	新モンゴル工業高等専門学校と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成29年3月20日	大連交通大学 八戸工業高等専門学校	大連交通大学と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成29年4月20日	青森県県土整備部 八戸工業高等専門学校	青森県県土整備部と八戸工業高等専門学校との土木系人材支援に関するパートナーシップ協定書
平成29年5月12日	フィンランド国ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学、トゥルク応用科学大学 東北地区6高専	フィンランド国ヘルシンキのメトロポリア及びトゥルクの両応用科学大学と東北地区6高専との学術交流協定
平成29年7月5日	アメリカ合衆国アリゾナ大学 八戸工業高等専門学校	アメリカ合衆国アリゾナ大学と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成29年7月20日	フランス共和国リアルA技術短期大学 フランス共和国ヴァランシエヌ技術短期大学 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 仙台高等専門学校 秋田工業高等専門学校 鶴岡工業高等専門学校 福島工業高等専門学校 函館工業高等専門学校 小山工業高等専門学校	フランス共和国リアルA技術短期大学、ヴァランシエヌ技術短期大学と東北地区高専及び函館高専・小山高専との学術交流協定
平成29年9月11日	シンガポールテマセクポリテクニク 八戸工業高等専門学校	シンガポールテマセクポリテクニクと八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成29年9月27日	フランス共和国アルトワ大学 東北地区6高専 函館工業高等専門学校 旭川工業高等専門学校 小山工業高等専門学校 長岡工業高等専門学校 岐阜工業高等専門学校	フランス共和国アルトワ大学と東北地区6高専及び函館高専、旭川高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専との学術交流協定

締結年月日	締結機関	協定の標題
平成30年7月24日	八戸市 八戸商工会議所 八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部 八戸工業大学 八戸工業高等専門学校	八戸市、八戸商工会議所及び八戸市高等教育連携機関との包括的な連携に関する協定
平成30年11月20日	タイプリンセスチュラポーンスサイエンスハイスクール チョンブリ校 八戸工業高等専門学校	タイプリンセスチュラポーンスサイエンスハイスクール チョンブリ校と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
平成31年1月24日	青い森信用金庫 八戸工業高等専門学校	青い森信用金庫と八戸工業高等専門学校との連携協力協定
平成31年3月29日	台湾文藻外語大学 八戸工業高等専門学校	台湾文藻外語大学と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和4年12月2日	弘前大学大学院理工学研究科 岩手大学理工学部 秋田大学 大学院国際資源学研究科 大学院理工学研究科 八戸工業高等専門学校 一関工業高等専門学校 秋田工業高等専門学校	6校の研究・教育分野の相互協力に関する協定
令和5年1月5日	モンゴル工業技術大学付属高専 八戸工業高等専門学校	モンゴル工業技術大学付属高専と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和5年1月5日	モンゴル科学技術大学付属高専 八戸工業高等専門学校	モンゴル科学技術大学付属高専と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和5年1月5日	新モンゴル学園 八戸工業高等専門学校	新モンゴル学園と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和5年3月31日	KOSEN-KMITL(キングモンクット工科大学ラカパン校高等専門学校) 八戸工業高等専門学校	3年次編入学制度に関する覚書
令和6年2月28日	東北大学大学院環境科学研究科	東北大学大学院環境科学研究科の連携講座に関する基本協定
令和6年10月1日	エルデネット高専 八戸工業高等専門学校	エルデネット高専と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和7年2月22日	ウムヌゴビ高専 八戸工業高等専門学校	ウムヌゴビ高専と八戸工業高等専門学校との学術交流協定
令和7年3月17日	岩手大学研究支援・産学連携センター 八戸工業高等専門学校	岩手大学研究支援・産学連携センターと八戸工業高等専門学校との岩手大学全学共同利用機器の利用に関する覚書
令和7年3月31日	八戸工業大学 八戸工業高等専門学校 八戸聖ウルスラ学院高等学校 八戸市 青森県	高病原性鳥インフルエンザ等発生時における集合施設等の使用に関する協定書
令和7年3月31日	KOSEN KMUTT(キングモンクット工科大学トンブリ校) 八戸工業高等専門学校	3年次編入学プログラムにおける協定書



福利厚生会館



食堂



売店

福利厚生会館は、本校の学生及び教職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動を支援し、学生生活をより豊かにすることを目的に設置されました。

構造は、鉄筋コンクリート二階建てで、延べ面積は752㎡です。会館には、一階に食堂、売店、二階に学生会室、課外活動共用室があり、学生及び教職員の食事、研修及び会議等に利用されています。



食堂メニューの例

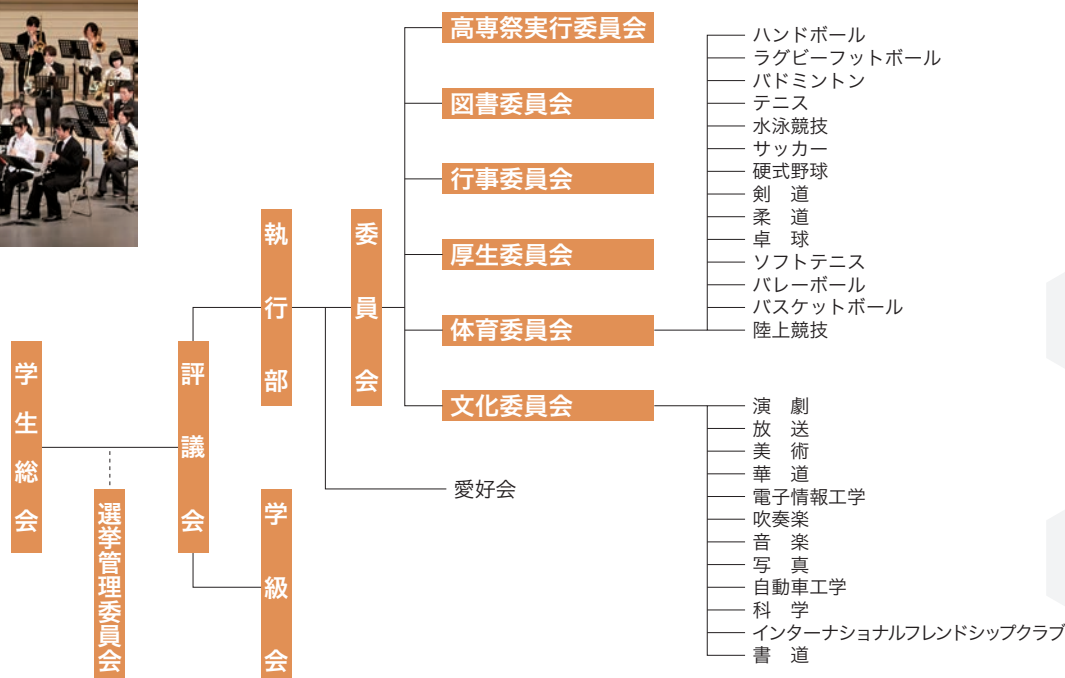


学生会とクラブ活動



学生の自主的な活動を通じ、人間形成を助長し、学生生活をより一層充実したものにするために学生会があります。学生会では、高専祭及びクラス対抗球技大会等の行事を実施する等活発に活動しています。また、学生は、文化系クラブ、体育系クラブ及び愛好会に所属しています。クラブ関係の対外活動の主なものとして高総体、高文連、高専体育大会、東北地区高専文化部発表会などがあります。

学生会組織図





学寮（北辰寮）



混住型国際寮のユニット内の共用スペースの様子

本校には、北辰寮と呼ばれている学寮（約450名収容可）があります。

この学寮は一定の基準により選考を行い入寮を認めています。

寮生の指導にはユニット毎に配置された担当教員が日常的な指導を行うとともに、全教員が輪番で宿直に当たります。また4、5年生および専攻科生の模範的な寮生から選ばれたユニットリーダー・サブユニットリーダーが低学年生の相談役として同じユニットに住み、同じ日課で生活しています。ユニット毎に、トイレ、洗面所、談話室、補食室、洗濯室が整備され、共用の洗濯・乾燥機が設置されています。

学寮には、寮生会が組織され、寮の環境整備、リサイクル活動、ボランティア活動等を行うとともに、寮祭、スポーツ大会など楽しくて有意義な活動を行っております。

また、令和元年度から混住型国際寮（日本人寮生と外国人留学生の混住寮）ができ、現在、国際寮は3棟となっています。

混住型国際寮では留学生を含む10名前後の寮生が一つのユニットとして生活を共にし、日常的な交流を通して国際感覚を学び、異文化理解を深めることを目的とする施設です。混住型国際寮の部屋は全て個室となっており、ユニットごとに、トイレ、洗面所、シャワー室、コミュニケーションスペース、キッチン等が整備され、共用の洗濯・乾燥機、テレビ、冷蔵庫等が設置されています。学校に居ながらにして海外の文化を学ぶことができ、また規律ある共同生活をする中で協調性を養い規則正しい生活を送ることができます。

令和7年4月2日現在

区分	収容内訳						
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	専攻科	合計
在寮生数	55(20)㉠	56(17)㉠	54(9)㉠	61(18)㉠	49(13)㉠	10(2)㉠	285(79)㉠

（ ）は女子、㉠は留学生で内数を示す

寮生活の主な行事

4月

- 入寮式
- 新入寮生オリエンテーション
- 新入寮生歓迎会

5月

- 寮生会総会
- 防災避難訓練

6月

- 寮祭

11月

- 寮内スポーツ大会

2月

- 寮内スポーツ大会



入寮式



学寮の日課（学習時間）



学寮（北辰寮）



教員等の研究活動

科学研究費(補助金・基金)の採択状況

研究種目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基盤研究(A)							1	7,800	1	5,200		
基盤研究(B)	1	8,320	1	4,550	1	4,550						
基盤研究(C)	10	6,630	9	9,360	9	8,580	8	7,280	5	6,500	7	10,920
新学術領域研究(研究領域提案型)	1	1,300	1	1,300								
若手研究	7	7,150	8	7,540	8	8,580	6	8,450	6	8,710	6	7,540
奨励研究	1	440	1	410	1	410			1	470		
研究活動スタート支援									2	3,080	2	3,120
計	20	23,840	20	23,160	19	22,120	15	23,530	15	23,960	15	21,580

※件数及び金額は、本校に交付内定通知があったもの。(令和7年4月1日現在)
※基金種目の継続課題については、令和7年度支払請求額を計上した。

令和6年度科学研究費(補助金・基金)採択課題

研究種目	研究課題	研究代表者
基盤研究(A)	データ駆動型ネットワーク解析による地熱エネルギーの社会受容性評価	土屋 範芳
基盤研究(C)	溶融金属中介在物の異相界面挙動の解明とその理論構築	新井 宏忠
基盤研究(C)	摺動熱によって自動的に欠陥を修復するセラミックブレーキ材料の創成	丸岡 大佑
基盤研究(C)	分解組立式電気自動車によるものづくり人材育成教育モデル開発	秋田 敏宏
基盤研究(C)	畜産排水から水環境中へ放流された薬剤耐性菌の実態調査とその抑制方法の開発	李 善太
基盤研究(C)	電波ジェットから探る超大質量ブラックホールのスピン	中村 雅徳
若手研究	敵対的生成ネットワーク(GAN)による癌撲滅のための生体内温度計測の新展開	井関 祐也
若手研究	生物の集団意思決定を模倣する自律分散自己組織ロボットの集合/変形メカニズムの実現	赤川 徹朗
若手研究	スマートフォン内蔵センサと機械学習による利便性の高い介助動作計測技術の開発	北川 広大
若手研究	内モンゴルにおける仏教寺院建築に関する研究	エンケ ホルワ
奨励研究	ビックデータ解析を活用した積雪融雪モデルの最適なパラメータ推定	小屋畑勝太
研究活動スタート支援	書物による作家・作品イメージの構築に関する研究ー寺山修司の著書を対象として	矢吹 文乃
研究活動スタート支援	もみ殻を活用した鉱物改質による廃棄物焼却飛灰の重金属不溶化	北村 洋樹

※2025.4.1時点で在籍している教職員で記載

令和7年度科学研究費(補助金・基金)採択課題

研究種目	研究課題	研究代表者
基盤研究(C)	溶融金属中介在物の異相界面挙動の解明とその理論構築	新井 宏忠
基盤研究(C)	分解組立式電気自動車によるものづくり人材育成教育モデル開発	秋田 敏宏
基盤研究(C)	畜産排水から水環境中へ放流された薬剤耐性菌の実態調査とその抑制方法の開発	李 善太
基盤研究(C)	電波ジェットから探る超大質量ブラックホールのスピン	中村 雅徳
基盤研究(C)	水溶性粒子を用いたAWJ切断面に生じる縞状凹凸の形成過程の解明と抑制の試み	沢村 利洋
基盤研究(C)	共生社会の円滑なコミュニケーションを目指したインタラクティブ手話学習支援システム	釜谷 博行
基盤研究(C)	熱パルスレーダーによる高精度生体表面温度計測が可能とする皮膚癌の早期診断法の開発	野中 崇
若手研究	スマートフォン内蔵センサと機械学習による利便性の高い介助動作計測技術の開発	北川 広大
若手研究	内モンゴルにおける仏教寺院建築に関する研究	エンケ ホルワ
若手研究	自律分散型自己組織ロボットに基づく形状が不確定な集合体の振る舞いの実現	赤川 徹朗
若手研究	廃棄物焼却飛灰の重金属不溶化を図るバイオミネラリゼーション	北村 洋樹
研究活動スタート支援	書物による作家・作品イメージの構築に関する研究ー寺山修司の著書を対象として	矢吹 文乃
研究活動スタート支援	もみ殻を活用した鉱物改質による廃棄物焼却飛灰の重金属不溶化	北村 洋樹

※2025.4.1時点で在籍している教職員で記載

受託事業・受託研究及び共同研究の受入れ状況

研究種目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
受託事業	0	0	0	0	0	0	2	2,334	2	3,756
受託研究	4	11,951	5	6,515	2	4,113	6	7,962	5	9,653
共同研究	6	8,908	9	9,272	8	8,777	8	10,124	11	15,167
計	10	20,859	14	15,787	10	12,890	16	20,420	18	28,576

(千円)

奨学寄附金の受入れ状況

研究種目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
奨学寄附金	13	12,585	13	12,380	14	11,520	14	8,753	15	15,610

(千円)

その他補助金・助成金

補助金	プログラム名	金額
経済産業省	中小企業経営支援等対策費補助金(Go-Tech事業):Xcentric-EVの開発〜カーボンニュートラルを実現する無給電EVを目指して〜	1,667
助成金	課題名	金額
(一財)野崎わかば会	次世代ミリ波帯通信による電磁界リスク評価のための人体皮膚モデルの開発	700
(公財)青森県建設技術センター	下水処理場における薬剤耐性菌への効果的な対策手法の開発	1,000
(公財)大林財団	設計者の意図を考慮した平面図生成AIの開発について	1,200
(公財)松井角平記念財団	清水寺観音堂のデジタル保存と耐震性能評価への統合的アプローチに関する研究	1,900
みずほ信託銀行(株)	公益信託エスベック地球環境研究・技術基金(エスベック環境研究奨励賞)	620
(一財)青森県工業技術教育振興会	薬剤耐性菌の塩素消毒による不活化効果の把握	150
(公財)長岡技科大技術開発教育研究振興会	癌の内部で自己展開する能動型インテリジェンス針状電極の開発	200
(公財)長岡技科大技術開発教育研究振興会	技術・家庭科における教材共有によるプログラミング出前授業に関する研究	200
(一社)日本電気協会新聞部	電気新聞「エネルギー教育支援事業」	150



地域との連携

地域テクノセンター 主催・共催事業

事業名	日程	開催地(会場)	対象
北東北地区 大学高専交流会	R 6. 10. 11	弘前大学	弘前大学理工学研究科、岩手大学理工学部、秋田大学国際資源学研究科、秋田大学理工学研究科、八戸高専、一関高専、秋田高専
研究室めぐり	R 6. 12. 2	八戸高専	(公財)八戸地域高度技術振興センター、地元企業・団体、一般市民
企業内容説明会	R 7. 3. 3	八戸高専	企業等 196 団体、本科 2・3・4 年生、専攻科 1 年生

公開講座

講座名	実施日	対象	受講者数
ロケットはなぜ飛ぶか ～PETボトルロケットコンテスト～	R 6. 6. 29	小学生、中学生	31名
光と虹と空の科学	R 6. 8. 3	小学4年生以上、中学生	10名
建築模型をつくろう	R 6. 8. 24	中学生、保護者、 中学校教員	43名
マイコンを使ったプログラミング 体験	R 6. 9. 28	小学5年生以上、中学生	19名
化学の学校 ～マテリアル・バイオ工学の世界へ ようこそ!	R 6. 9. 28、 R 6. 10. 5	小学5年生以上、中学生	45名
メカnoワールド体験塾 Aコース	R 6. 10. 5	中学生、中学校教員	21名
建築を見る	R 6. 10. 12	中学生、保護者、 中学校教員	20名
水の浄化実験	R 6. 10. 26	中学生、保護者、 中学校教員	10名
メカnoワールド体験塾 Bコース	R 6. 11. 2	中学生、中学校教員	24名
ペーパーブリッジをつくろう	R 6. 11. 9	中学生、保護者、 中学校教員	15名
こうせん・美術館アートコラボ2024	R 6. 12. 14	小中学生、保護者、一般	198名



令和7年4月1日現在

定員及び現員〈本科〉

		産業システム工学科				計
		機 械 ・ 医 工 学 コ ー ス	電 気 情 報 工 学 コ ー ス	マテリアル・バイオ工 学 コ ー ス	環 境 都 市 ・ 建 築 デザインコース	
入学定員		160				
総定員		800				800
現 員	第1学年	39(8)	40(8)	40(22)	40(19)	159(57)
	第2学年	51(6)	44(10)	37(23)	43(16)	175(55)
	第3学年	41(6)	42(4)	38(15)	36(12)	157(37)
	第4学年	38(6)	42(6)	39(23)	42(14)	161(49)
	第5学年	36(5)	37(2)	45(21)	36(8)	154(36)
	計	205(31)	205(30)	199(104)	197(69)	806(234)

定員及び現員〈専攻科〉

		産業システム工学専攻				計
		機 械 シ ス テ ム デザインコース	電 気 情 報 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス	マテリアル・バイオ工 学 コ ー ス	環 境 都 市 ・ 建 築 デザインコース	
入学定員		28				
総定員		56				56
現 員	第1学年	6(2)	7(0)	7(2)	5(1)	25(5)
	第2学年	4(1)	10(1)	7(5)	3(1)	24(8)
	計	10(3)	17(1)	14(7)	8(2)	49(13)

※上記の在籍者は休学者を含む。また、() は女子学生で内数とする

令和7年4月1日現在

出身地別在学生数

		学 年							
		本 科					専 攻 科		合 計
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年	
県 内	八戸市	77(32)	80(31)	75(21)	68(26)	69(11)	8(2)	10(4)	387(127)
	青森市	15(6)	14(4)	12(2)	13(3)	16(7)	1(0)	3(2)	74(24)
	弘前市	5(1)	2(0)	2(0)	7(3)	4(0)	1(0)	1(0)	22(4)
	黒石市		1(1)	1(0)	2(2)	2(1)	1(0)		7(4)
	五所川原市		1(0)	1(0)	3(1)	1(0)			6(1)
	十和田市	3(1)	6(3)	6(1)	7(1)	12(2)	2(1)		36(9)
	三沢市	9(2)	11(3)	5(0)	3(1)	11(4)			39(10)
	むつ市	5(1)	4(0)	1(0)	1(0)	1(0)			12(1)
	つがる市		2(2)	1(0)	2(0)	1(0)			6(2)
	平川市	1(1)	4(2)	2(0)	2(0)			1(0)	10(3)
	東津軽郡		1(0)		3(1)	2(1)			6(2)
	西津軽郡								0(0)
	南津軽郡			2(0)	1(0)				3(0)
	北津軽郡				3(2)				3(2)
	上北郡	21(4)	27(3)	20(4)	22(3)	13(2)	6(1)	3(0)	112(17)
	下北郡		1(1)	1(0)	1(0)	1(1)			4(2)
	三戸郡	9(5)	9(3)	8(4)	10(2)	11(3)	1(0)	1(0)	49(17)
	小 計	145(53)	163(53)	137(32)	148(45)	144(32)	20(4)	19(6)	776(225)
県 外	北海道	1(0)		1(1)					2(1)
	岩手県	10(2)	9(2)	5(1)	6(0)	5(1)	3(1)	3(1)	41(8)
	山形県			1(1)					1(1)
	宮城県	1(0)	2(0)	1(0)					4(0)
	栃木県			1(0)					1(0)
	埼玉県	1(1)							1(1)
	静岡県		1(0)						1(0)
	大阪府	1(1)		1(0)					2(1)
	小 計	14(4)	12(2)	10(3)	6(0)	5(1)	3(1)	3(1)	53(12)
外国人留学生	インドネシア								0(0)
	タイ			5(2)	4(4)	3(2)	1(0)	2(1)	15(9)
	マレーシア			2(0)					2(0)
	ミャンマー			1(0)					1(0)
	モンゴル			1(0)	1(0)	1(0)	1(0)		4(0)
	ラオス			1(0)	2(0)	1(1)	0(0)		4(1)
	小 計			10(2)	7(4)	5(3)	2(0)	2(1)	26(10)
合 計		159(57)	175(55)	157(37)	161(49)	154(36)	25(5)	24(8)	855(247)

令和6年度実績

奨学生数

日本学生支援機構(貸与)	8(1)	6(1)	7(2)	20(3)	20(3)	4(1)	3(1)	68(12)
日本学生支援機構(給付)				28(9)	21(7)	4(0)	4(0)	57(16)
八 戸 市	4(3)	4(0)	2(1)	4(1)	2(2)			16(7)
そ の 他	4(1)		2(1)	6(1)	3(1)	3(0)	3(0)	21(4)
計	16(5)	10(1)	11(4)	58(14)	46(13)	11(1)	10(1)	162(39)

() は女子内数を示す

学生受入状況／ 入学者状況〈本科〉

兄／ 〈本科〉	産業システム工学科								計		志願 倍率
	機 械 ・ 医 工 学 コ ー ス		電 気 情 報 工 学 コ ー ス		マテリアル・バイオ 工 学 コ ー ス		環 境 都 市 ・ 建 築 デザインコース				
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	
令和3年度	55(8)	43(6)	94(10)	40(2)	85(41)	39(18)	63(23)	41(11)	297(82)	163(37)	1.9
令和4年度	59(6)	42(5)	82(13)	39(5)	66(34)	41(25)	65(23)	42(14)	272(76)	164(49)	1.7
令和5年度	48(8)	43(6)	81(7)	41(3)	54(21)	36(15)	52(19)	36(12)	235(55)	156(36)	1.5
令和6年度	63(9)	45(6)	67(11)	41(9)	81(44)	40(24)	40(15)	41(17)	251(79)	167(56)	1.6
令和7年度	45(12)	39(8)	68(9)	39(8)	55(30)	37(21)	49(26)	38(18)	217(77)	153(55)	1.4

※志願者は第1志望コースへ計上している。志願倍率は志願者数を入学定員で除したものである。() は女子内数を示す

学生受入状況／ 入学者状況〈専攻科〉

専攻科	産業システム工学専攻								計	
	機 械 シ ス テ ム デザインコース		電 気 情 報 シ ス テ ム 工 学 コ ー ス		マ テ リ ア ル ・ バ イ オ 工 学 コ ー ス		環 境 都 市 ・ 建 築 デザインコース			
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
令和3年度	8	6	7	5	11(5)	7(4)	7(1)	1	33(6)	19(4)
令和4年度	10	7	10	7	9(3)	5(3)	12(5)	5(4)	41(8)	24(7)
令和5年度	7(1)	5(1)	10(2)	5(2)	8(2)	8(2)	5(3)	4(2)	30(8)	22(7)
令和6年度	9(1)	4(1)	12(1)	10(1)	8(5)	7(5)	3(1)	3(1)	32(8)	24(8)
令和7年度	9(2)	6(2)	16(2)	7	8(3)	7(2)	13(3)	5(1)	46(10)	25(5)

() は女子内数を示す

本校4学年への 編入学状況

高等教育機関の受け入れ拡大のための方策として、高等学校出身者を対象に、高専への編入学が認められるようになり、本校においても昭和60年度から募集を始め、最近5年間の編入学者数は下表のとおりです。

	産業システム工学科					計
	機械システムデザインコース	機械・医工学コース	電気情報工学コース	マテリアル・バイオ工学コース	環境都市・建築デザインコース	
令和3年度				1		1
令和4年度			2			2
令和5年度		1			1	2
令和6年度		1	1			2
令和7年度						0

() は女子内数を示す

外国人留学生の 在学状況〈本科〉

	産業システム工学科				計
	機械・医工学コース	電気情報工学コース	マテリアル・バイオ工学コース	環境都市・建築デザインコース	
第1学年					
第2学年					
第3学年	2	2(1)	4(1)	2	10(2)
第4学年	1(1)	2(1)	3(2)	1	7(4)
第5学年		2(2)	2(1)	1	5(3)
計	3(1)	6(4)	9(4)	4	22(9)

外国人留学生の 在学状況〈専攻科〉

	産業システム工学専攻				計
	機械システムデザインコース	電気情報システム工学コース	マテリアル・バイオ工学コース	環境都市・建築デザインコース	
第1学年		1	1		2
第2学年	1(1)	1			2(1)
計	1(1)	2	1		4(1)

() は女子内数を示す



進路／就職状況

令和7年3月卒業生

進路状況

	本 科										専 攻 科									
	産業システム工学科								計	産業システム工学専攻								計		
	機 械 システム デザイン コ ー ス	電 気 情 報 エ ン ジ ー コ ー ス	マ テ リ ア ル ・ バ イ オ エ ン ジ ー コ ー ス	環 境 都 市 ・ 建 築 デ ザ イ ン コ ー ス	男	女	男	女		機 械 システム デザイン コ ー ス	電 気 情 報 システム エ ン ジ ー コ ー ス	マ テ リ ア ル ・ バ イ オ エ ン ジ ー コ ー ス	環 境 都 市 ・ 建 築 デ ザ イ ン コ ー ス	男	女					
																男	女		男	女
卒業者数	32	6	36	8	18	16	28	13	114	43	4	1	3	2	6	2	2	2	15	7
就職者数	21	2	15	6	6	6	14	8	56	22	3	1	2	1			1	1	6	3
進学者数	10	4	20	2	12	10	13	4	55	20	1		1	1	6	1	1		9	2
自営・その他	1		1				1	1	3	1						1		1		2
求人数	634		656		438		490		2218		600		620		409		466		2,095	
求人倍率	27.6		31.2		36.5		22.3		28.4		150.0		206.7		／		233.0		232.8	
就職率	100%		100%		100%		100%		100%		100%		100%		／		100%		100%	

地域別 就職状況

就職者数	21	2	15	6	6	6	14	8	56	22	3	1	2	1			1	1	6	3
青森県内	2		3		1	1	1	1	7	2										
東北地区(青森県を除く)	1		1						2									1		1
関東地区	14	2	10	5	5	5	13	7	42	19	1		2	1			1		4	1
その他の地区	4		1	1					5	1	2	1							2	1

産業別 就職状況

建設業	1		1				5	3	7	3								1		1
鉱 業																				
製 造 業	食品・飲料・たばこ・飼料				2	1			2	1										
	印刷・同関連業																			
	化学工業・石油・石炭製品		2		1		3	4		6	4									
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品		3		1		1	1		5	1									
	はん用・生産用・業務用機械器具		2						2					1						1
	電子部品・デバイス・電子回路		3		4	1			7	1	2								2	
	電気・情報通信・機械器具		1		2				3		1	1							1	1
	輸送用機械器具		4						4											
	その他																			
電気・ガス・熱供給・水道業	3	2	3	1			3	1	9	4										
情報通信業			1						1				1						1	
運輸業・郵便業	1						3	1	4	1										
卸売業・小売業	1			1					1	1			1						1	
不動産業・物品賃貸業							1	1	1	1										
学術研究・専門・技術サービス業			2	3					2	3										
教育・学習支援業																				
サービス業																				
公 務							2	2	2	2							1		1	
その他																				
合 計	21	2	15	6	6	6	14	8	56	22	3	1	2	1			1	1	6	3

専攻科入学・大学への
編入学状況〈進学〉

	進学年度				
	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
八戸高専専攻科	19(4)	24(7)	22(7)	24(8)	24(5)
函館高専専攻科	1(1)	1(1)	1(0)		3(0)
北海道大学		1(1)	1(1)	1(0)	
室蘭工業大学	2(0)	2(0)	2(0)	2(0)	1(1)
帯広畜産大学				1(1)	
弘前大学	1(0)		1(0)		
岩手大学	8(2)	5(0)	5(3)	3(0)	6(0)
東北大学		2(0)	3(0)	2(0)	2(1)
秋田大学	4(1)	1(0)	2(0)		1(0)
山形大学	1(0)		1(0)		
茨城大学		2(0)			
筑波大学		2(1)	2(0)	1(0)	1(0)
宇都宮大学	4(0)	3(1)	5(3)	3(1)	4(2)
群馬大学		1(0)			2(1)
埼玉大学		2(0)	2(0)		
千葉大学		1(0)			
東京農工大学	2(1)			1(0)	
東京科学大学			1(1)	2(0)	3(0)
お茶の水女子大学		1(1)			
電気通信大学		1(0)			
横浜国立大学		3(0)	1(1)	1(0)	2(0)
新潟大学			2(0)	1(0)	
長岡技術科学大学	4(2)	10(1)	6(0)	7(3)	6(2)
山梨大学	1(0)			1(1)	1(0)
信州大学	3(0)	3(1)	2(0)	4(1)	1(1)
金沢大学	1(0)	2(0)		1(0)	2(0)
静岡大学				1(1)	
名古屋大学		2(0)			
豊橋技術科学大学	5(1)	7(3)	10(1)	12(4)	6(3)
三重大学	1(0)			1(0)	
京都工芸繊維大学					1(0)
大阪大学	1(0)				
岡山大学		1(0)	1(1)		
広島大学		1(0)	1(0)	1(1)	
高知大学			1(0)		
岩手県立大学		1(0)			
秋田公立美術大学		1(0)			1(1)
東京都立大学				1(0)	
滋賀県立大学		1(0)			
八戸工業大学	1(0)				
東北学院大学					1(0)
工学院大学			1(0)		
東京工科大学					1(1)
日本大学				1(0)	
金沢工業大学					1(0)
大阪芸術大学	1(0)				
姫路獨協大学	1(1)		4(3)	2(1)	5(2)
サイバー大学			1(0)		
合 計	61(13)	81(17)	78(21)	74(22)	75(20)
(卒業者数)	(150)	(159)	(144)	(167)	(157)

専攻科から大学院への
進学状況

	進学年度				
	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度
北海道大学大学院	3(0)	2(0)			
東北大学大学院	9(1)	7(2)	7(0)	10(4)	8(1)
宇都宮大学大学院	1(0)	1(0)			
筑波大学大学院	1(0)	1(0)		3(1)	
東京大学大学院			1(1)		1(0)
お茶の水女子大学大学院					1(1)
千葉大学大学院	1(0)			1(0)	
東京科学大学大学院	1(0)				1(0)
九州大学大学院			1(0)		
合 計	16(1)	11(2)	9(1)	14(5)	11(2)
(修了者数)	(31)	(23)	(20)	(24)	(22)

() は女子内数を示す



施設の概要

建物

区分	名 称	構 造	面 積 (㎡)
校舎関係	講 義 棟	RC-4	2,924
	機 械・医 工 学 コース 棟	RC-5	2,265
	電 気 情 報 工 学 コース 棟	RC-5	2,259
	マテリアル・バイオ工学コース棟	RC-5	2,375
	環境都市・建築デザインコース棟	RC-3	2,088
	専 攻 科 棟	RC-3	975
	ものづくりセンター	S-1	667
	ゼ ミ ナ ー ル 棟	RC-3	1,233
	マテリアル・バイオ工学コース第2棟	RC-2	532
	地 域 テ ク ノ セ ン タ ー	RC-2	490
	小 計		15,808
管理関係	管 理 棟	RC-3	1,152
	福 利 厚 生 会 館	RC-2	752
	ボ イ ラ ー 室	RC-1	270
	廃 水 処 理 施 設	RC-1	160
	小 計		2,334
図 書 館	図 書 館	RC-2	1,708
	小 計		1,708
体育施設	第 一 体 育 館	S-1	1,153
	第 二 体 育 館	S-1	924
	武 道 館	S-1	566
	体育トレーニングセンター	S-1	171
	小 計		2,814
学 寮	北 辰 寮	RC-1~4	12,637
	小 計		12,637
	そ の 他		1,597
	職 員 宿 舎	24戸	1,562
	合 計		38,460



テニスコート



赤レンガ広場

屋外運動場施設

陸上競技場	300 m × 6 コース
野球場	1 面
水泳プール	25 m × 7 コース
テニスコート	5 面 (人工芝)

土地

敷地名	面 積
校 舎	50,498
学 寮	12,703
運 動 場	34,305
そ の 他	343
計	97,849
職 員 宿 舎	3,257
合 計	101,106

施設配置図





収入・支出決算額

収入・支出決算額 (令和6年度)

収入決算額		(千円)	支出決算額		(千円)
区 分	決算額		区 分	決算額	
運 営 費 交 付 金	144,771		教育研究経費・教育研究支援経費	351,609	
施 設 整 備 費 補 助 金	540,447		一 般 管 理 費	32,517	
自 己 収 入	224,918		施 設 整 備 費	540,447	
産学連携等研究収入	30,680		産学連携等研究経費	23,511	
寄 附 金 収 入	15,610		寄 附 金 事 業 費	16,444	
そ の 他 補 助 金	1,619		そ の 他 補 助 金 事 業 費	1,245	
計	958,045		計	965,773	



学年暦

学年暦 (令和7年度行事予定)

令和7年4月1日現在

	行 事	日 程
4月	入学式・入寮式	2日(水)
	始業式・対面式・入学者研修会	3日(木)
5月	専攻科推薦選抜試験	19日(月)
	春学期到達度試験	28日(水)～30日(金)
6月	校内体育大会	12日(木)
	専攻科学力選抜試験	17日(火)
	全学年保護者懇談会	28日(土)
7月	東北地区高専体育大会	4日(金)～6日(日)
	中学生一日体験入学	19日(土)～20日(日)
	夏学期到達度試験	1日(金)～6日(水)
8月	夏季休業	8日(金)～9月21日(日)
	全国高専体育大会(サッカー、ラグビー除く)	23日(土)～9月21日(日)
9月	校長講話	26日(金)
	校内球技大会	10日(金)
10月	東北地区高専体育大会(ラグビーフットボール競技)	10日(金)～14日(火)
	プログラミングコンテスト全国大会(松江高専)	11日(土)～12日(日)
	ロボコン東北地区大会(福島高専)	12日(日)
	開校記念日	13日(月)
	保護者懇談会(第1・2・3学年)	25日(土)
	高専祭	25日(土)～26日(日)
11月	全国高専デザインコンペティション(福井高専)	8日(土)～9日(日)
	ロボコン全国大会	16日(日)
	秋学期到達度試験	27日(木)～12月2日(火)
12月	保護者懇談会(第4学年)	6日(土)
	第4学年見学旅行	16日(火)～19日(金)
	全国高専体育大会(サッカー競技)	20日(土)～24日(水)
	冬季休業	26日(金)～1月12日(月)
1月	全国高専体育大会(ラグビーフットボール競技)	4日(日)～9日(金)
	本科推薦選抜面接試験	17日(土)
	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト	24日(土)～25日(日)
	こうせん・美術館アートコラボ	31日(土)
2月	本科入学者選抜学力試験	8日(日)
	冬学期到達度試験	13日(金)～17日(火)
	自主探究ポスター発表会	19日(木)～21日(土)
	第3学年遠足	25日(水)
3月	キャリア教育企業内容説明会	3日(火)
	学年修了式(1～4学年)	4日(水)
	入学手続日	17日(火)
	卒業・修了証書授与式	19日(木)
	学年末休業	20日(金)～31日(火)



八戸市の紹介



八戸市街地から八戸港を望む

八戸市は、太平洋を望む青森県の東南部に位置する人口約21万人の北東北を代表する地方中核都市です。

気候は年間を通して比較的穏やかで、降雪量が少なく日照時間が長いことが特徴であり、地形は海岸線に向かって概ね円形を描き大部分が平野となっています。

八戸市は全国有数の水産都市として、さらには東北有数の工業都市、国際物流拠点都市として着実な発展を遂げてきました。

国宝の「合掌土偶」、「赤糸威鎧・兜、大袖付」、「白糸威褌取鎧・兜、大袖付」などの歴史遺産、国の重要無形民俗文化財である「八戸えんぶり」やユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録された「八戸三社大祭」などの伝統文化、三陸復興国立公園「種差海岸」をはじめとする美しい自然景観等は、八戸市の誇る地域資源です。また、学術、文化、スポーツ分野などにおいても国内外で活躍する多くの人材に恵まれています。

八戸市では、このような地域の可能性を生かすため、「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」を将来都市像として定めています。

さらに、平成29年1月に中核市に移行したことに伴い、都市の自主性・自立性を高め、市民福祉の拡大化を図るとともに、近隣市町村との広域連携を強化しながら、圏域全体の活性化に向けて連携中枢都市圏の形成を推進しています。



交通のご案内

- 東北新幹線 八戸駅から 2.6km
- JR 八戸線 本八戸駅から約 5km
- 八戸駅から高専まで
 - タクシー 5 分
 - 南部バス 聖ウルスラ学院行・八戸ニュータウン行〔高専前下車〕
中心街・ラビア行(田面木経由)〔田面木下車／徒歩10 分〕
- 八戸市内中心街（六日町）から高専まで
 - タクシー 約 20 分
 - 市営バス 聖ウルスラ学院行〔高専前下車〕



●印は、八戸高専案内看板の位置です。

独立行政法人 国立高等専門学校機構
八戸工業高等専門学校
 〒039-1192 青森県八戸市大字田面木字上野平16番地1

お問い合わせ

総務課	総務グループ	電話 0178-27-7223	FAX 0178-27-9379
	財務グループ	電話 0178-27-7228	FAX 0178-27-4092
学生課		電話 0178-27-7234	FAX 0178-27-9487
就職担当		電話 0178-27-7303	FAX 0178-27-9487
ホームページ		https://www.hachinohe-ct.ac.jp/	

R7.6 発行